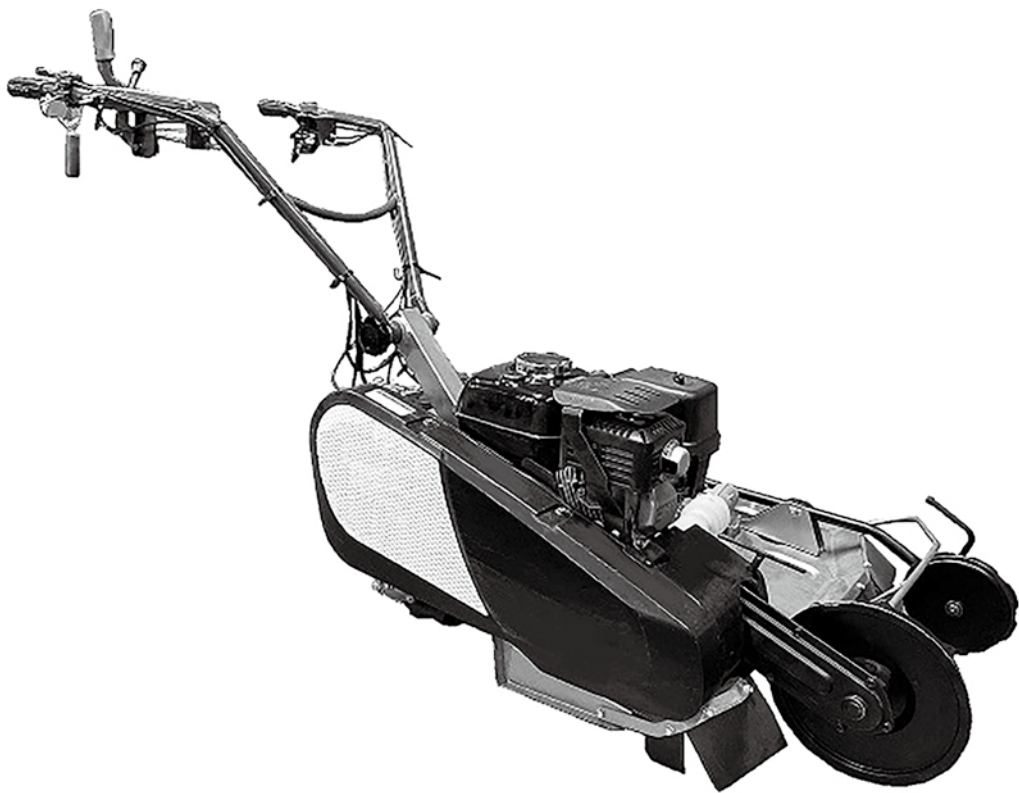


カクハ-畦畔草刈機

取扱説明書

WIDE MOWER

SGCM750-FC



ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解していただき誤操作のないようご注意ください。



エンジン回転数低速



エンジン回転数高速

専門用語の説明

- 走行クラッチレバー …………… 車輪への動力を“入”“切”するレバーです。
- 刈取りクラッチレバー …………… 刈刃への動力を“入”“切”するレバーです。
- 側面刈部引きレバー …………… 側面刈部の角度を保持したり、持ち上げるレバーです。
- 前輪角度調節ハンドル …………… 前輪の角度を任意の位置で固定するハンドルです。
- 飛散防止カバー …………… 石が飛散するのを防止するカバーです。
- 上面刈高さ調節レバー …………… 上面刈部の草刈高さを調節するレバーです。
- 側面刈高さ調節レバー …………… 側面刈部の草刈高さを調節するレバーです。

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただき、じゅうぶん理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、▲表示ラベルが汚損したり、はがれた場合は購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



危険：注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



警告：注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



注意：注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、草刈機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造はしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。

(詳細は保証書をご覧ください。)

畦畔草刈機を安全にしかも上手にご使用していただくため、この取扱説明書は次の手順で構成されていますので、基本操作から草刈り作業まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1. **▲安全に作業するために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や▲表示ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し、必ず守ってください。

動かす前に諸装置を理解しましょう

2. **諸装置の説明：**諸装置のはたらきをまず理解し、間違った操作をしないでください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3. **運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため、毎作業前の点検内容を理解し、必ず実施してください。

最初にエンジンの安全基本操作を体得しましょう

4. **エンジンの始動と停止：**機体の突然の発進をさせないため、エンジンの始動手順と停止を体得してください。

次に畦畔草刈機の安全走行のための基本操作を体得しましょう

5. **畦畔草刈機の運転：**
 - (1)安全に機体を走行・停車させる基本操作を体得してください。
 - (2)毎作業前に点検を必ず実施してください。
 - (3)畦畔草刈機をほ場へ安全に移動させるため、トラックへの安全な積込み・積降しと運搬方法を理解し、必ず守ってください。

各装置を理解し、畦畔草刈機の性能を最大に発揮させましょう

6. **上手な草刈り作業のしかた：**ほ場条件にあった各部の正しい調節、安全で正しい草刈り作業を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

7. **メンテナンス：**機械を長持ちさせるために、草刈りシーズン前後・長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し、来シーズンに備えてください。

畦畔草刈機がもしもの不調のときは

8. **畦畔草刈機の不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき、現象に応じて、処置をしてください。

目次

▲安全に作業するために……▲-1

1. 安全作業をするため
次のことがらを必ず守ってください……▲-1
2. ▲表示ラベルの種類と貼付け位置……▲-4
3. ▲表示ラベルの手入れ……▲-5

サービスと保証について…… 1

- ご相談窓口…… 1
- 補修用部品の供給年限について…… 1

各部の名称…… 2

諸装置の説明…… 3

- エンジンスイッチ…… 3
- リコイルスタータ…… 3
- アクセルレバー…… 3
- チョークレバー…… 3
- 燃料コックレバー…… 4
- 変速レバー…… 4
- 走行クラッチレバー…… 4
- 刈取りクラッチレバー…… 4
- 側面刈部引起しレバー…… 5
- 前輪角度調節ハンドル…… 5
- 上面刈高さ調節レバー…… 5
- 側面刈高さ調節レバー…… 5

運転前の点検…… 6

日常点検項目…… 6

- 燃料の点検・補給…… 7
- エンジンオイルの点検・補給…… 7
- エアクリーナの点検・清掃…… 7
- リコイルカバー、マフラ周辺部の点検・清掃…… 8
- 飛散防止カバーの点検…… 8
- 刈刃・刈刃ホルダ・刈刃取付ボルト・
刈刃取付ナット・刈刃ピンの点検…… 9

エンジンの始動と停止…… 10

始動のしかた…… 10

- 各種レバー位置を確認する…… 10
- エンジンスイッチを操作する…… 11
- リコイルスタータのノブを引く…… 11

停止のしかた…… 11

草刈機の運転…… 12

移動走行について…… 12

- 走行のしかた…… 12
- 停車のしかた…… 12

トラックへの積込み・積降し…… 13

- あゆみ板での積込み・積降し…… 13
- 輸送時の固定のしかた…… 14

上手な草刈り作業のしかた…… 15

作業ができる草丈と畦形状…… 15

- 草丈の条件…… 15

- 畦形状の条件…… 15

草刈り作業のしかた…… 15

- ハンドル高さ調節…… 16
- 上面刈高さ調節…… 16
- 側面刈高さ調節…… 16
- 前輪の角度調節…… 17
- 基本操作…… 17
- 畦草刈り作業のしかた…… 17
- 溝越えのしかた…… 18
- 畦上でのターンのしかた…… 18
- 駐車のみかた…… 19

メンテナンス…… 20

洗車時の注意…… 20

定期点検と処置…… 20

- 定期点検・交換一覧表…… 21
- 点検・注油一覧表…… 21

各部オイルの点検・補給・交換・注油…… 22

- エンジンオイルの点検・交換…… 22
- ミッションケースオイルの点検・交換…… 23
- 前輪駆動チェーンへの注油…… 23
- カナグ(ヘンソク)・シャフト(ヘンソク)への注油…… 23
- 刈刃駆動ジョイント部へのグリース…… 24
- ベベルギヤケースへのグリース…… 24

各部の点検・調整・清掃・交換…… 25

- 刈刃の交換と刈刃ホルダの点検・交換…… 25
- 走行ベルトの点検・交換・調整…… 26
- 刈刃ベルトの点検・交換…… 26
- 各ワイヤの点検・調整…… 27
- リコイルカバー内部の清掃…… 28
- 燃料パイプの点検…… 28
- 燃料カップの清掃…… 28
- 点火プラグの点検・清掃…… 29
- 刈刃ユニバーサルジョイント部
セットピンの交換…… 29
- 上面刈刃部キーの交換…… 30
- 前輪ユニバーサルジョイント部
キョウリョクピンの交換…… 31
- タイヤ空気圧の調整…… 31

長期格納のしかた…… 31

使用者が行なってはいけない修理…… 31

使用済廃棄物の処理について…… 31

畦畔草刈機の不調と処置…… 32

- エンジン部…… 32
- 本機部…… 33

付表…… 34

- 主要諸元…… 34
- 付属品…… 34
- 消耗部品…… 35

▲ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で▲ 危険・▲ 警告・▲ 注意・重要・補足として、そのつど取上げていきます。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書および機械に貼付けている▲表示ラベルをよく読み理解してください。

- ▲表示ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損、紛失したときは、注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品をかってに改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意をはらってください。

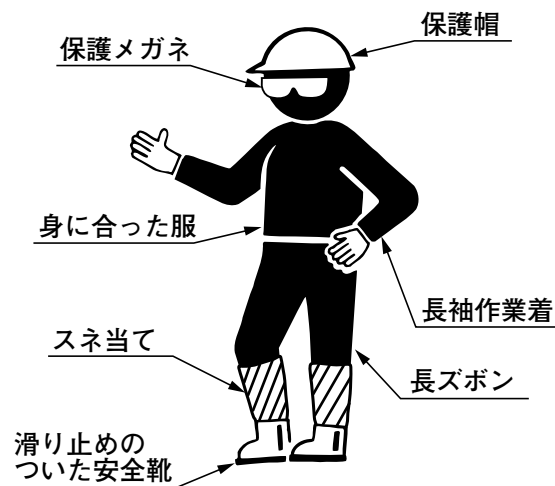


M-6215

作業前の注意

■機械を安全に使用するために、次の事項は必ず守ってください。

- 飛散物による事故防止のために、長袖の作業着、長ズボンを着用し、保護メガネ、保護帽、スネ当て、滑り止めのついた安全靴などの保護具を身につけてください。
- 飛散物による事故防止のため、事前に石やその他の異物は確実に取除き、移動できない障害物はその位置を明確にした目印をつけてください。
- 飛散防止カバーは外して使用すると事故を招くおそれがあるので、必ず装着し、ネジの締付けなどの点検をしてください。
- 飛散防止カバーは必ず指定の純正品を使用し、破れ、欠損、変形した場合はすぐ交換してください。
- 刈刃は必ず指定の純正品を使用し、損傷やネジの締付けを点検し、損傷を発見したらすぐ交換してください。
- 疲れているとき、身体の調子の悪いとき、飲酒をしたり薬物を服用したときは使用しないでください。
- 本機を他人に貸すときは、機械と一緒に取扱説明書を渡し、よく読んで正しい使い方をよく理解してから使用するよう指導してください。
- 心身機能の低下した高齢者及び子供には絶対運転させないでください。
- 排気ガスは有害です。換気の悪い場所（屋内、トンネル内など）での作業はしないでください。



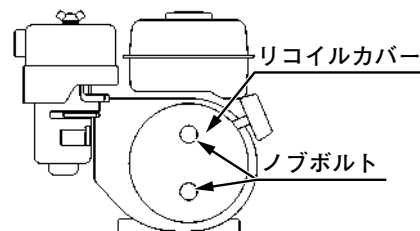
安全に作業するために

作業前点検（日常点検）の実施

■運転の前には“運転前の点検”の項目の点検をしてください。異常があれば直してから運転してください。

■点検・調整・整備・掃除・注油をするときはエンジンを必ず止めてください。

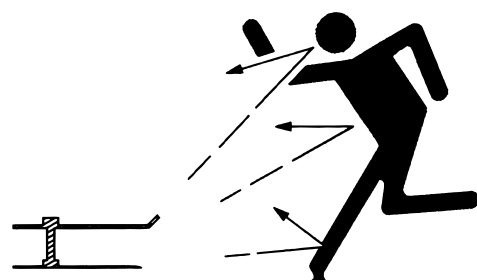
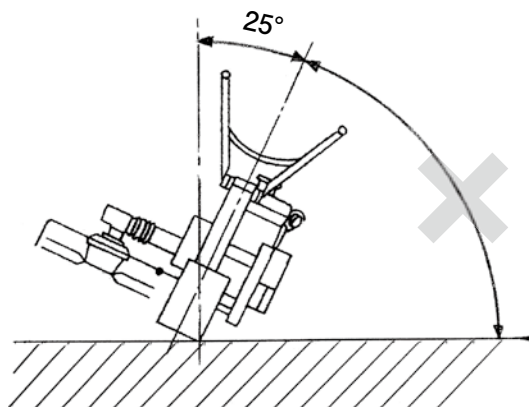
- エンジンリコイルカバー、マフラ周辺部にほこり、屑がたまっているとエンジンが過熱し火災の原因となります。きれいに取除いてください。又、ときどきはノブボルトを外してリコイルカバー内部の清掃をしてください。
- オイルは指定のものを使ってください。
- 点検・調整などが終わったら外したカバー類は必ず取付けて作業を行なってください。
- 刈刃は確実に取付けられているか、損傷はないかを確認してから使用してください。
- 飛散防止カバーは確実に取付けられているか、破れ・欠損・変形がないか確認してから使用してください。
- 燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えていることを確認し、火気のない通気の良いところで行なってください。補給中に燃料をこぼしたときは、引火のおそれがありますのできれいにふき取ってください。
- 給油量は必ず、燃料タンクの注入口口元から油面まで2.5cm以上の余裕をとってください。万一、多く入れ過ぎた時は適量になるまで抜取ってください。



作業中の注意

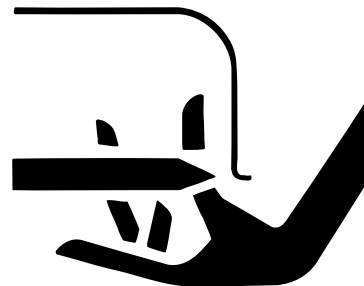
■機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは、人や動物などを周辺に近づけないでください。もし、近づいたら作業を停止してください。
- エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーと刈取りクラッチレバーを“切”にしてください。
- もれた燃料への引火防止のため、燃料を入れた場所より3m以上離れた所で、エンジンを始動してください。
- 機体を25°以上傾けると燃料がもれます。火災防止のため機体を25°以上傾けないでください。
- 後進するときは、必ず後方の安全を確認し、刈取りクラッチレバーを“切”にしてから後進してください。
- 運転中は刈刃や回転部に手足や体を近づけないでください。
- 機械の周囲は石などが飛散します。危険なので人を近づけないでください。
- 小石やその他の異物は飛散し、ケガをするおそれがあります。作業中に発見したら、すぐに取り除いてください。
- 畦には境界線や測量用の杭を打ち込んでいることがあります。障害物はその位置を確認した後、目印をたてその場所は避けてください。障害物に刈刃が当たると機械が破損する場合があります。
- 草刈り中の作業員への合図は、鏡や笛で遠くから合図をし、エンジンを止めてから話をしてください。
- 作業している周辺に人家や車などがある場合は、防護シートなど



でおおってから作業を行なってください。

- 移動するときや機械から離れるときは、必ずエンジンを止めてください。
- 刈刃部に空缶、針金、小石などがかみ込んだ場合は、必ずエンジンを停止し、刈刃の停止を確認してから取除いてください。そのとき、刈刃部に損傷がないかも調べてください。
- ヤケド防止のため、作業中・エンジン停止後15分はエンジン本体、マフラなどに触れないでください。
- 運転中は点火プラグやコードに触れないでください。感電するおそれがあります。
- 連続作業は、疲労のため事故の原因となります。1時間以上の連続作業は行なわないようにしてください。
- 機械に異常（異常音、異常振動、不具合）を感じたときは、直ちに作業を中止して機械を修理してください。
- 極端に乾燥した条件で枯草等の草刈を行なった場合、刈刃が石に当たって発生する火花で稀に発火することがあります。じゅうぶんご注意ください。



M-6242

夜間及び雨や強い風のときは、作業は行なわないでください

- この機械は夜間作業に必要な箇所を照明するための作業灯が付けられませんので、安全のため夜間作業はしないでください。
- 本機は前後2輪のため、斜面では安定しません。転倒するおそれがあるので、5°以上の斜面では作業は行なわないでください。
- 草がぬれていたり、雨天のときは草刈り作業をしないでください。足をすべらせて転倒するおそれがあります。

作業終了後の注意

- エンジンが冷えるまで可燃物（燃料、枯れ草、ビニールなど）の近くに置かないでください。
- 目に飛散物が入ったときには
- 機械を使っていて、「目の中に何か入ったかな？」と思う程度でも、目をこすったりしないで、すぐに眼科の診断を受けましょう。
- 本機の使用目的は畦畔の雑草刈用です。他に使用しないでください。

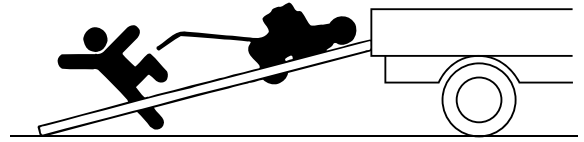
安全な点検・整備

- エンジンをかけたままでの点検・調整・整備・掃除・給油は危険です。エンジンを必ず止めて作業してください。
- 機体を傾ける場合は燃料がもれて火災の原因になります。必ず燃料を抜いてから作業してください。
- 特にマフラやエアクリーナ部分の付着物に注意してください。
- エンジンに草・木の葉などをたい積させないでください。これら可燃物がたい積すると火災の原因になったり、機械を破損する場合があります。
- 各部の締付ネジのゆるみがないか、刈刃に損傷がないかを点検し、ネジのゆるみがあれば締付け、刈刃に損傷があった場合はメーカー指定の純正の刈刃と付属のボルトを交換してください。刈刃の交換の際は必ず手袋を着用してください。
- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をお使いください。
- 点検・整備・掃除などが終わったら外したカバー類は必ず取付けて作業を行なってください。

安全に作業するために

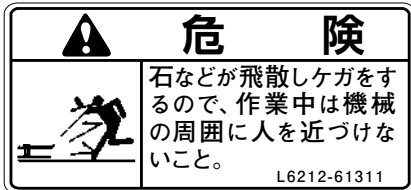
安全なトラック輸送

- 積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキをしっかりと掛けてください。
- トラックへの積込みは、変速レバーを“低”速にし、アクセルレバーを“ (低速)”位置で行なってください。
- 積降しは、変速レバーを“後”進にし、アクセルレバーを“ (低速)”位置で行なってください。
- あゆみ板はフックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。
また、あゆみ板は荷台高さの4倍以上の長さで、すべり止めがあり、強度がじゅうぶんある基準に合ったものを使ってください。
- トラックやトレーラなどに積んで走るときは、機体が動かないように全体をロープで固定してください。

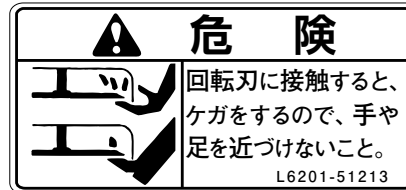


2. ▲表示ラベルの種類と貼付け位置

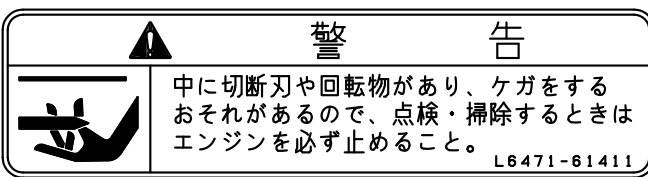
①品番 L6212-6131-1



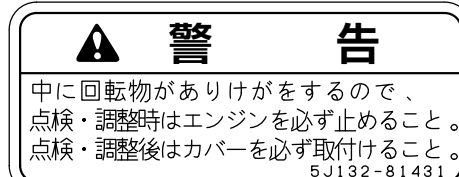
②品番 L6201-5121-3



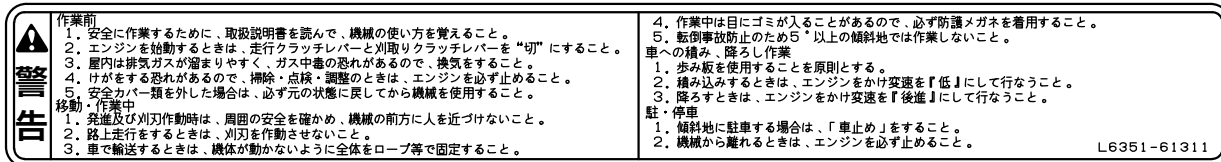
③品番 L6471-6141-1



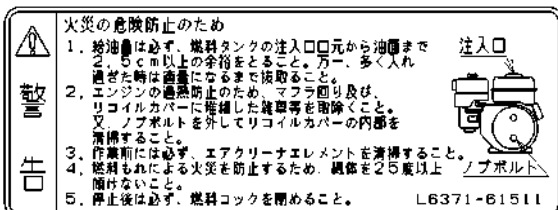
④品番 5J132-8143-1



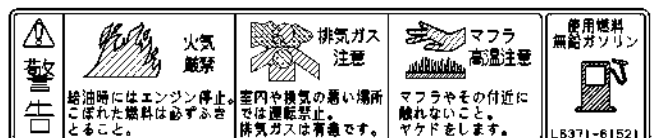
⑤品番 L6351-6131-1



⑥品番 L6371-6151-1



⑦品番 L6371-6152-1



⑧品番 L6351-6132-1

▲警告

変速レバーの切換は必ずエンジンを始動し、走行クラッチレバーを『切』の位置で行うこと。後進するときは、必ず後方の安全を確認し、刈取クラッチレバーを『切』にすること。

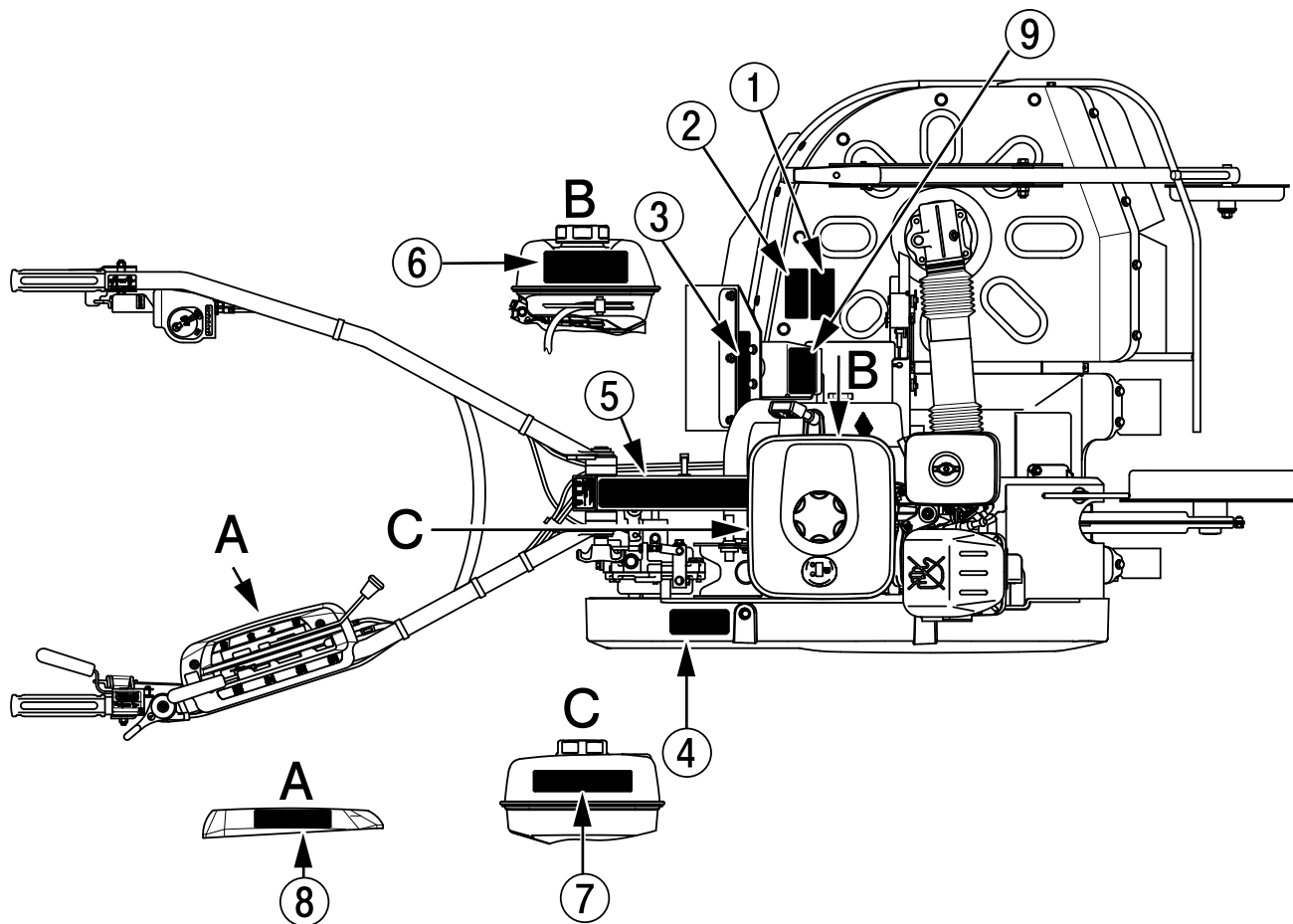
L6351-6132-1

⑨品番 L6351-6133-1

▲警告

エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーと刈取りクラッチレバーを“切”にすること。

L6351-6133-1

**3. ▲表示ラベルの手入れ**

(1)ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。

もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布でふいてください。

シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。

(2)高压洗浄機で洗車すると、高压水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高压水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全にふき取り、乾いた後、もとの位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けされている部品を新品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にご相談ください。

その際 (1)販売型式名と製造番号

(2)エンジン型式名とエンジン号機

をあわせてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらで相談ください。



警告

*機械の改造は危険ですので、改造しないでください。

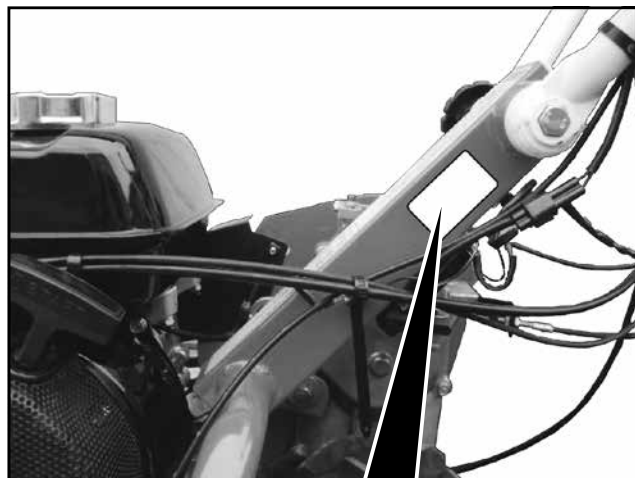
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

■補修用部品の供給年限について

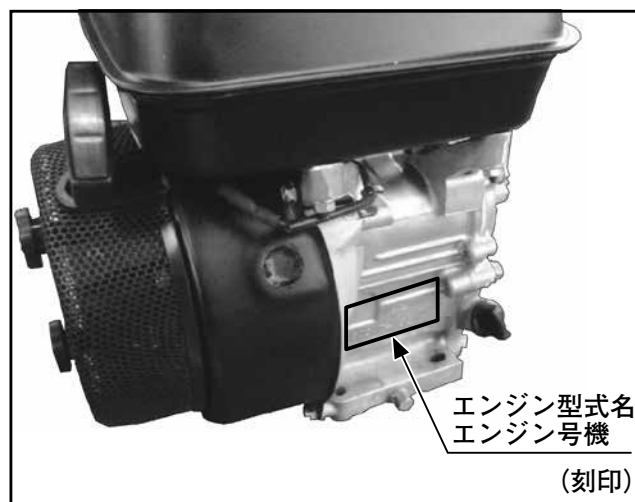
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後9年といたします。

但し、供給年限内であっても特殊部品につきましては、期限などについてご相談させていただく場合もあります。

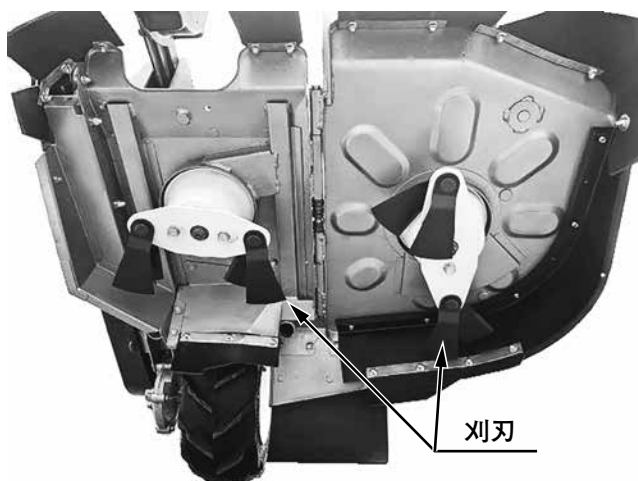
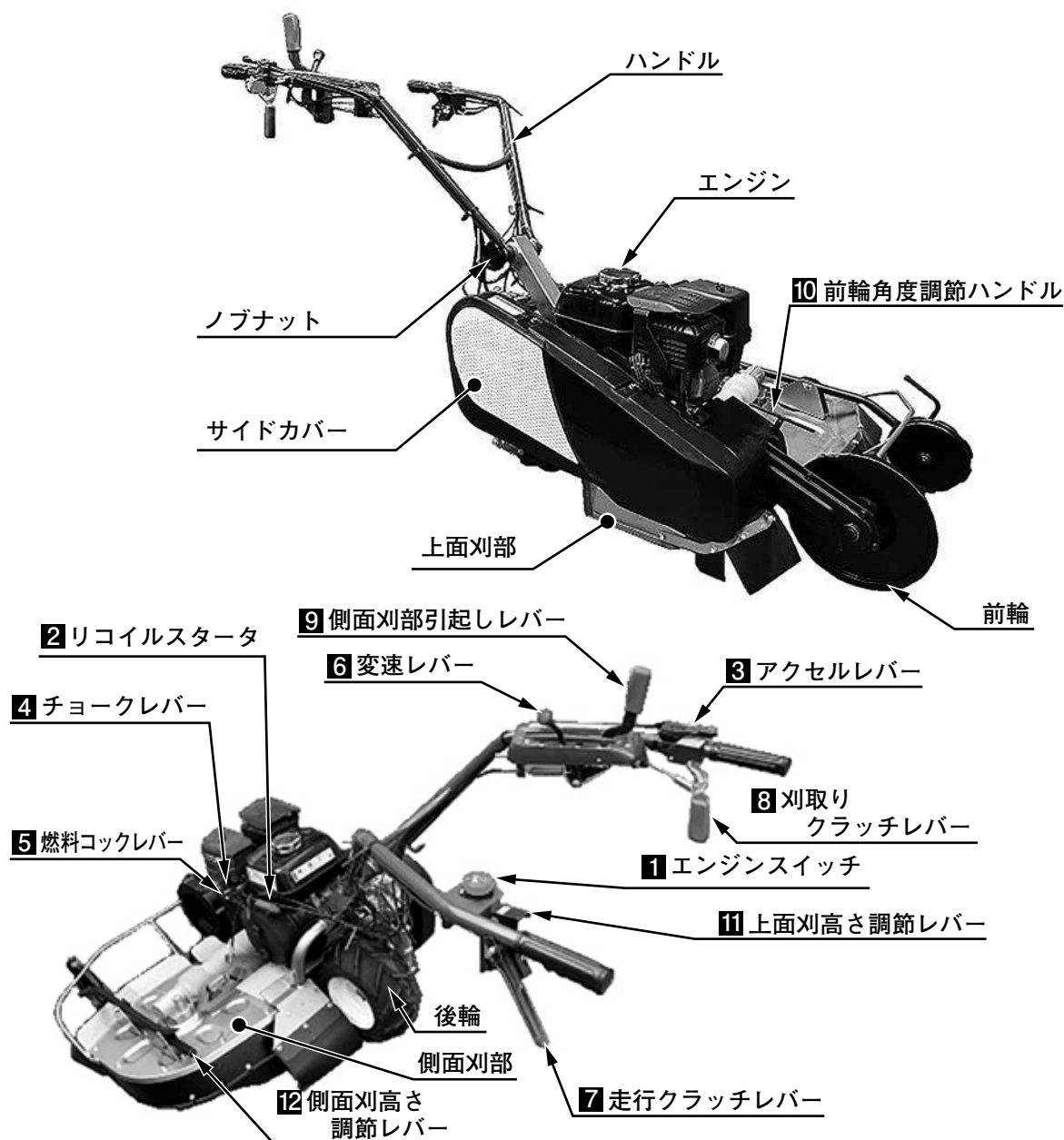
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。



農業機械の種類	ロータリモア
型式名	クボタ <input type="text"/>
販売型式名	<input type="text"/>
区分	<input type="text"/>
車台(製造)番号	<input type="text"/>
製造会社	株式会社 齋藤農機製作所
株式会社 齋藤農機製作所	



各部の名称



参照ページ

1 エンジンスイッチ	3
2 リコイルスタータ	3
3 アクセルレバー	3
4 チョークレバー	3
5 燃料コックレバー	4
6 変速レバー	4
7 走行クラッチレバー	4
8 刈取りクラッチレバー	4
9 側面刈部引起しレバー	5
10 前輪角度調節ハンドル	5
11 上面刈高さ調節レバー	5
12 側面刈高さ調節レバー	5

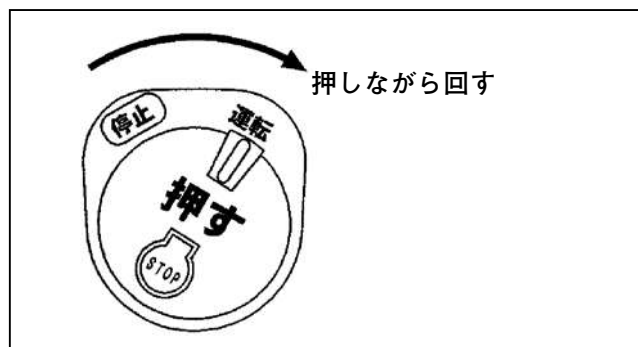
諸装置の説明

1 エンジンスイッチ

エンジンの運転、停止を切替えるスイッチです。

“停止(切)”…………… エンジン停止位置

“運転(入)”…………… エンジン始動位置



補足

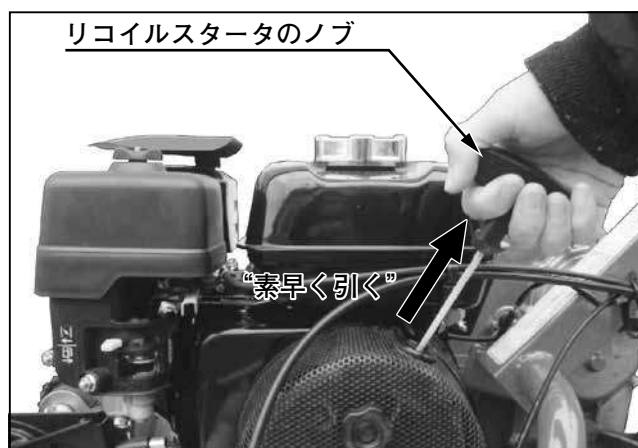
* エンジンを“停止”するときには、エンジンスイッチを押ししてください。“運転”にするときは、押しながら回してください。

* 停止位置では、エンジンは始動しません。

2 リコイルスタータ

エンジンを始動する装置です。

エンジン始動のとき、リコイルスタータのノブを素早く引っ張ってください。



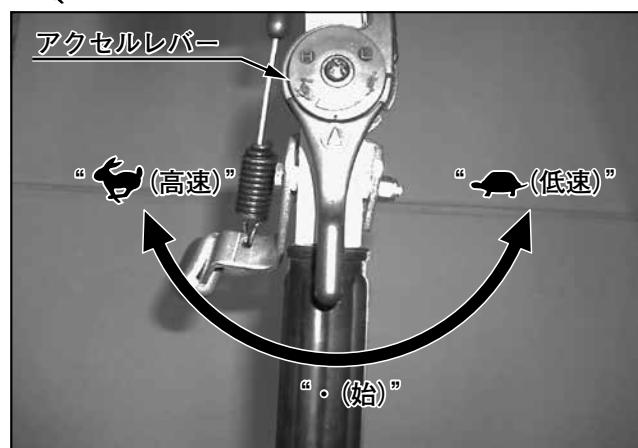
3 アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。

“ (低速) ” …… エンジン“低速”の位置

“ ・ (始) ” …… エンジン“始動”の位置

“ (高速) ” …… エンジン“高速”の位置

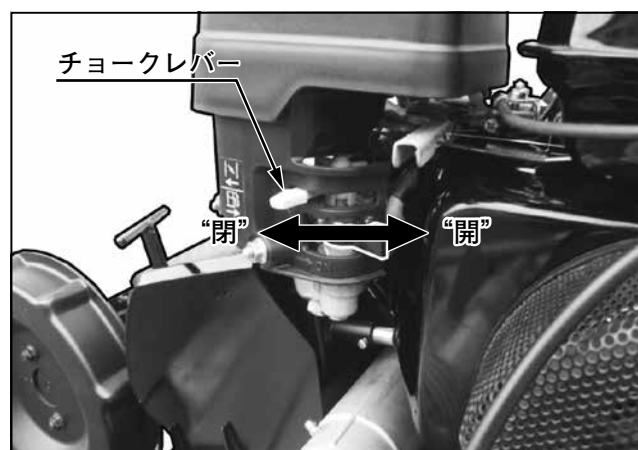


4 チョークレバー

寒冷時にエンジンの始動を容易にするものです。

エンジン“始動時”…………… “閉” へ

エンジン“始動後”…………… “開” へ



補足

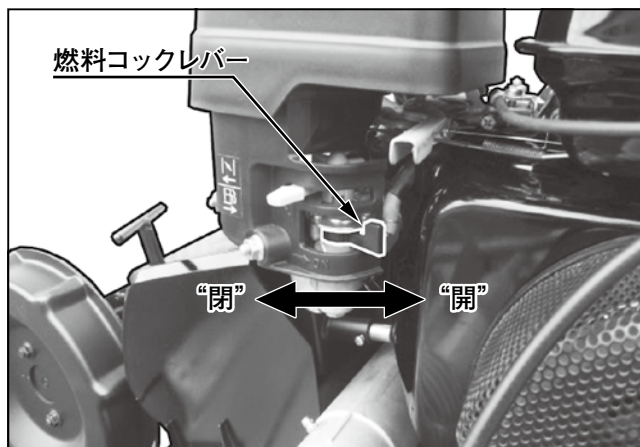
* エンジンが暖まっているときは、チョークレバーはそのまま“開”位置で始動してください。

5 燃料コックレバー

エンジンへの燃料供給を操作するレバーです。

エンジン“始動時”…… “開”

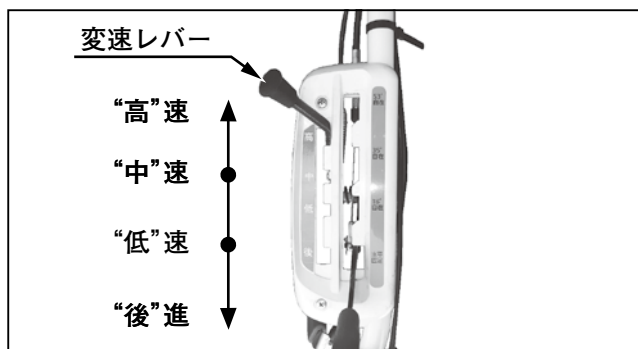
エンジン“停止時”…… “閉”



6 変速レバー

走行速度を選択するレバーです。

前進3段、後進1段の车速が選択できます。



重要

- * 変速レバーの切り替えは必ずエンジンを始動してから行ってください。
- * 変速レバーの切り替えは必ず走行クラッチレバーを離して“切”の位置で行ってください。

補足

- * 変速レバーはアクセルレバーを“低”にしてから素早く切り替えてください。切り替え時にギヤ鳴りすることがありますが、機械の異常ではありません。

7 走行クラッチレバー

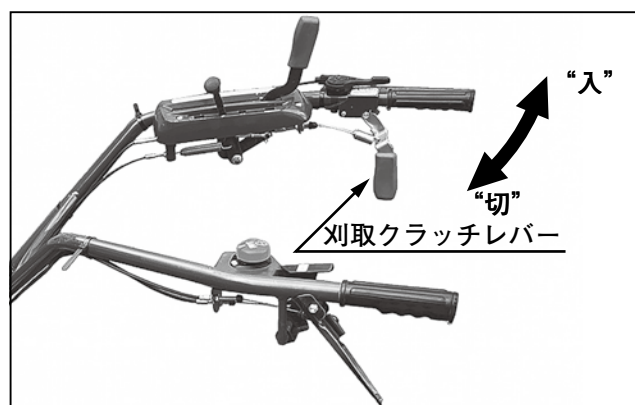
前輪、後輪への動力を“入”“切”するレバーです。

(手を放すことにより本機は停止します。)



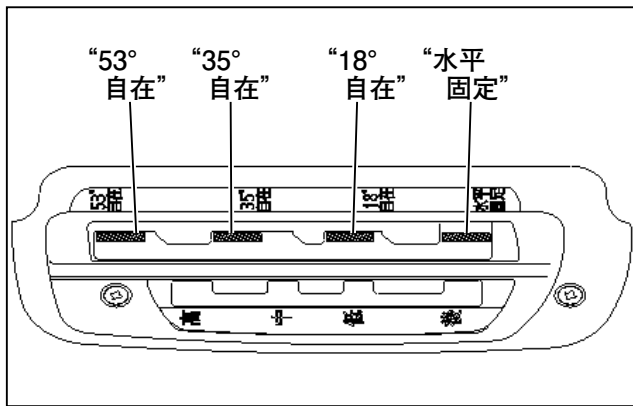
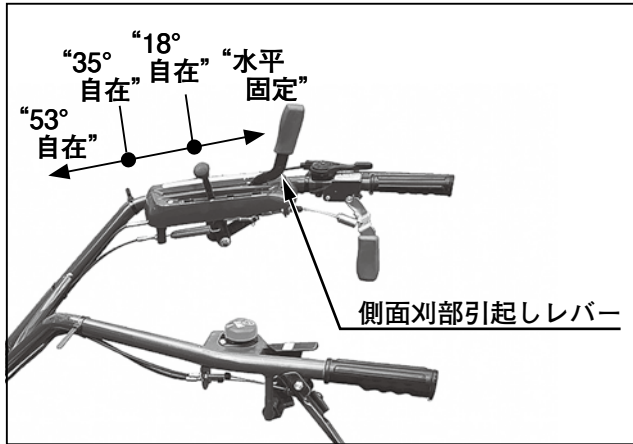
8 刈取りクラッチレバー

刈刃への動力を“入”“切”するレバーです。



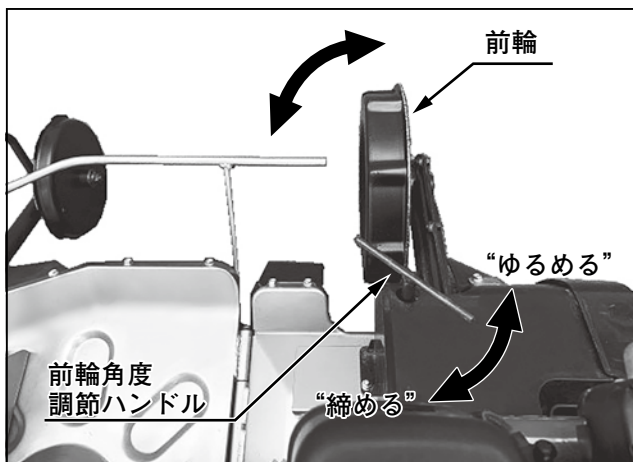
9 側面刈部引起しレバー

畦などの側面の草刈り作業に側面刈部の角度を“固定”及び“自在”（3段階）に選択できるレバーです。



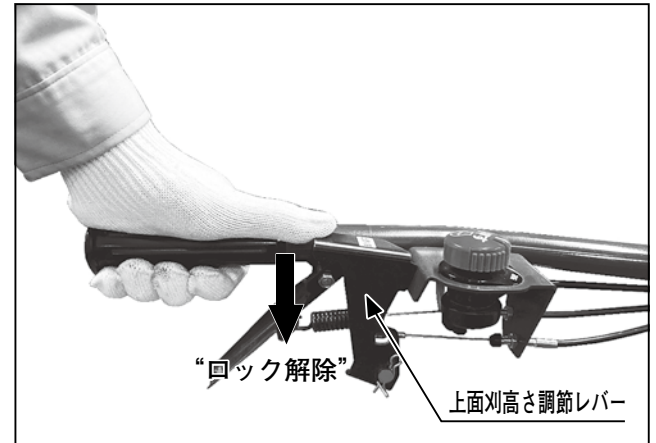
10 前輪角度調節ハンドル

前輪の角度を任意の位置で固定するハンドルです。

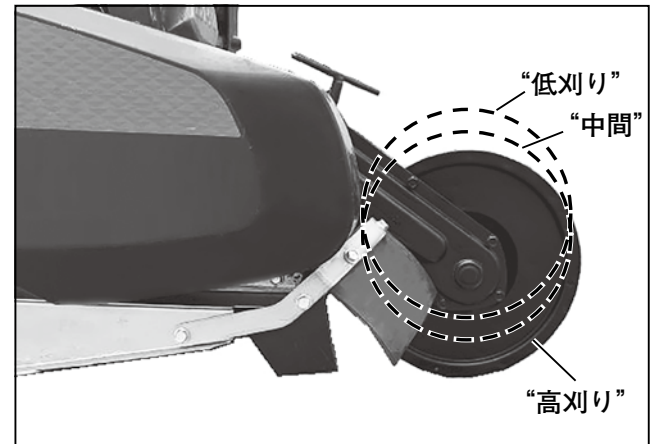


11 上面刈高さ調節レバー

上面刈部の草刈り高さを調節するレバーです。



上面刈部の草刈り高さは3段階選択できます。



12 側面刈高さ調節レバー

側面刈部の草刈り高さを調節するレバーです。



側面刈部の草刈り高さは4段階選択できます。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。

(点検・調整方法の詳細は、P20“メンテナンス”の項を参照。)



- *必ずエンジンを停止し、冷えてから作業をしてください。
- *燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
- *取り外した回動部のカバー類は、衣服などを巻込む危険がありますので、必ず取付けてから作業してください。
- *運転前に日常点検を行ない、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
- *使用前には必ずオイル、燃料を規定量、給油してください。
- *燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- *エンジン、マフラカバー内にほこり・ごみがたまっていると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
- *刈刃の点検時は刃先に注意してください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

◆機械の回りを歩いて

- (1)ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
- (2)機体各部の変形や損傷がないか点検します。
- (3)油もれがないか点検します。
- (4)機体各部に枯葉などがたまっていないか点検します。

日常点検項目

〈ここを〉		→	〈こうする〉	参 照 ペー ジ
燃 料	*作業に必要な燃料があるか。		*ガソリンを補給する。 ……自動車用レギュラガソリン(無鉛)	7
エンジンオイル	*オイルゲージの“上限”に油面があればよい。		*油面がオイルゲージの“上限”になるまで補給する。	7
エアクリーナ	*エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっていないか。		*清掃又は交換する。	7
リコイルカバー	*リコイルカバーの目詰まりはないか。		*付着しているほこり・ごみを取除く。	8
マフラ周辺部	*ほこり・ごみがたまっていないか。		*掃除をする。	8
タイヤ	*空気圧が基準値内であるか。		*基準値内まで空気を詰める。	31
飛散防止カバー	*破れ、欠損、変形がないか。		*交換する。	8
刈刃・刈刃ホルダ	*刈刃が曲ったり、割れていないか。 *刈刃ホルダに亀裂などないか。		*交換する。	9, 25
刈刃ホルダ取付ボルト	*ボルト・ナットにゆるみがないか。		*締付ける。	9, 25
刈刃取付ナット				

重要

燃料・オイル量の点検・補給・交換

- *点検・補給・交換するときはエンジンが水平になるように刈高さを調整してください。傾いていると正確な量を示しません。
- *使用するエンジンオイル、ミッションオイルは、指定の“オイル”を必ず使用してください。
(P21 点検・注油一覧表を参照)

■燃料の点検・補給



警告

*燃料は非常に引火しやすいため、取扱いを誤ると火災事故の原因となります。給油時は必ず火気を遠ざけ、タバコは吸わないでください。

*作業中に燃料を補給する場合は給油前に必ずエンジンを停止し、冷えてから行なってください。

*給油量は必ず、燃料タンクの注入口元から油面まで2.5cm以上の余裕を取ってください。万一、多く入れ過ぎた時は適量になるまで抜取ってください。

*キャップは確実に締め、こぼれた燃料はふき取ってください。

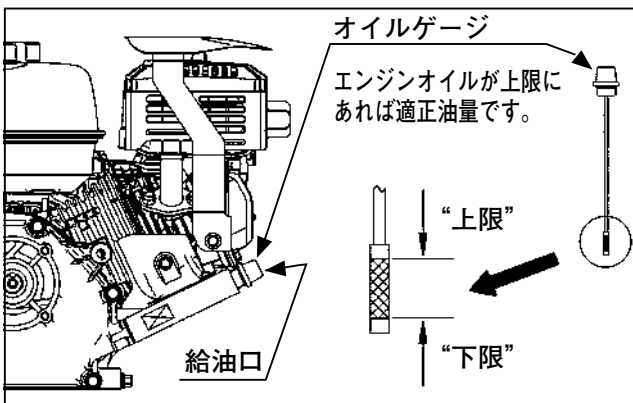
燃料には“自動車用レギュラガソリン(無鉛)”を使用してください。タンク容量：3.1L



■エンジンオイルの点検・補給

◆点検 [エンジンを水平状態にして]

オイルゲージ(ネジ式)を抜いて先端をきれいにふいてから、ゲージをねじ込まずに当たるまで差し込んで油面が上限にあれば適正です。不足しているときは、オイルを上限まで補給してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。



◆補給

●オイルゲージを外し、新しいオイルを上限まで補給します。

オイルの種類

4サイクルガソリンエンジンオイルS E級以上
S A E 10W-30



注意

*オイルゲージは、手で確実にねじ込んでください。

*ねじ込みが甘いとオイルがもれることがあります。

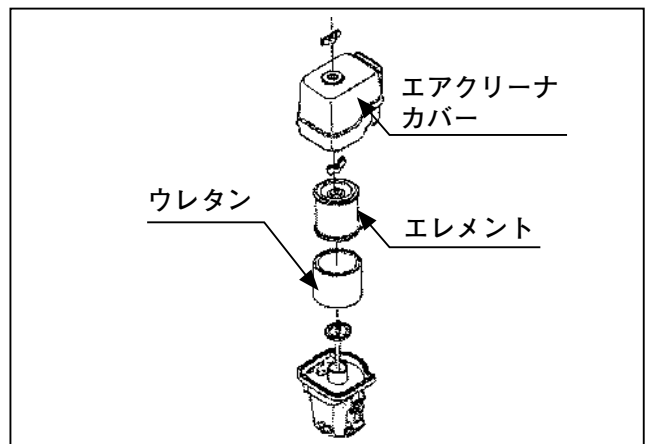
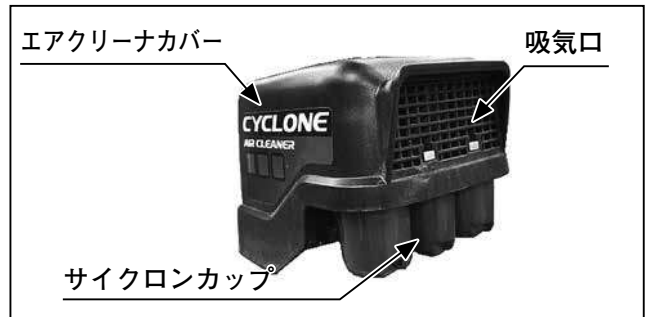
◆交換

P22“エンジンオイルの点検・交換”の項参照。

■エアクリーナの点検・清掃

◆点検

エアクリーナカバーを外し、吸気口とサイクロンカップ・ウレタン・エレメントを点検します。汚れていたり、目詰まりしているときは清掃してください。



◆清掃

エレメントを平らなところで軽くたたきながらほこりを落とすか、又はエレメントに圧縮空気を内側から吹きつけてください。汚れがひどい場合は交換してください。(ウレタンも同様に行なってください。)

重要

*エレメント及びウレタンは、点検・清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。

*エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。

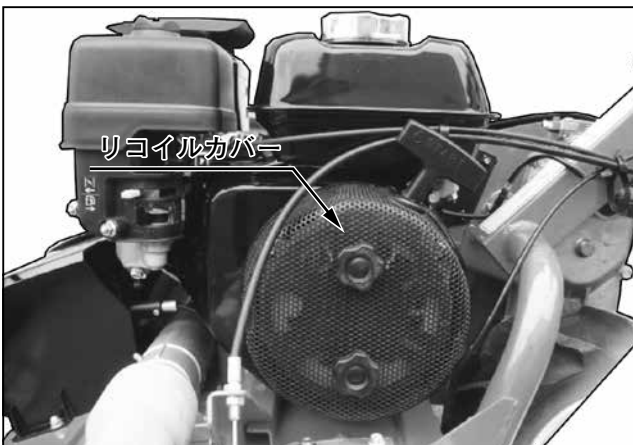
重要

- *エアクリーナカバーはサイクロンカップを分解・分離せずに点検・清掃してください。エアクリーナ性能に影響が出る場合があります。
- *エアクリーナカバーを水洗いした際は、カバー内が完全に乾ききってから装着してください。エンジン内に水が浸入し、損傷することがあります。
- *乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。
- *エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し、エンジンを損傷することがあります。
- *ほこりの多い作業のときは8時間ごと又は1日1回清掃を行なってください。

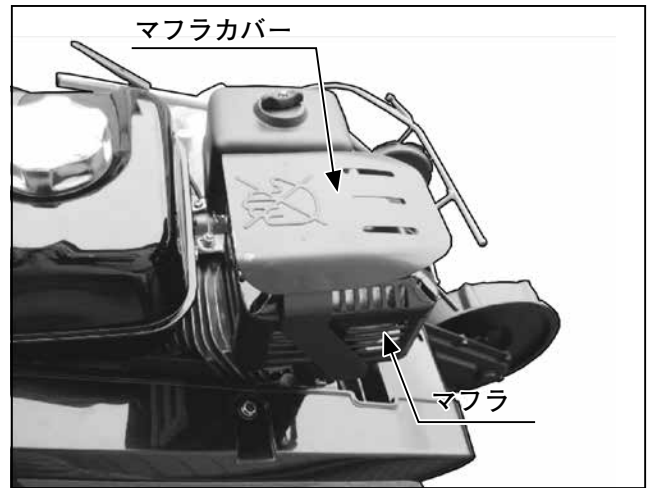
リコイルカバー、マフラ周辺部の点検・清掃**警告**

- *エンジンリコイルカバー、マフラ周辺部にほこり、草くずがたまっていると火災の原因になります。きれいに取除いてください。又、ときどきはノブボルトを外してリコイルカバー内部も清掃してください。(P28“リコイルカバー内部の清掃”の項参照)
- *ヤケド防止のため、エンジン停止後じゅうぶんに冷えてから作業をしてください。

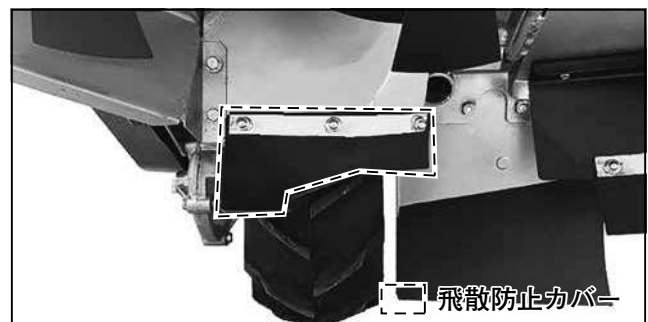
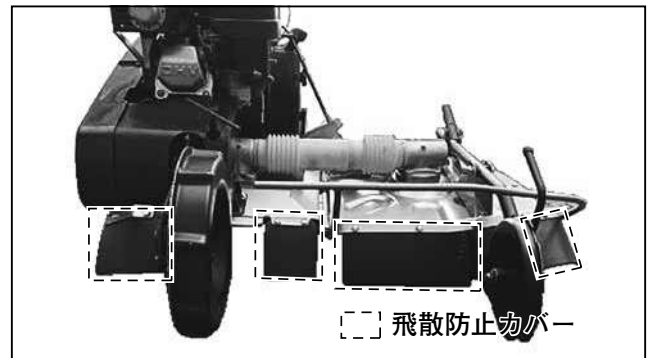
- リコイルカバーに付着しているほこり、ごみを取除いてください。



- マフラ周辺部 (マフラ、マフラカバー) のほこり、ごみを取除いてください。

**飛散防止カバーの点検****警告**

- *飛散防止カバーに損傷があると、飛散物により事故を招くおそれがあります。異常がある場合はすぐに交換してください。
- 破れ、欠損、変形はないか、取付けボルト・ナットにゆるみはないか点検してください。
- 異常がある場合は交換してください。



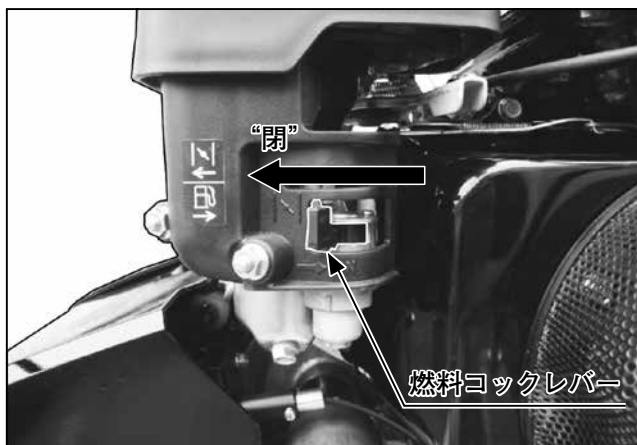
■刈刃・刈刃ホルダ・刈刃取付ボルト・刈刃取付ナット・刈刃ピンの点検

⚠ 危険

* 刈刃や刈刃ピン、刈刃ホルダに損傷があったり、刈刃取付ボルト・刈刃取付ナットにゆるみがあると作業中に飛散し、事故を招くおそれがあります。異常があれば放置せず、すぐに対処してください。

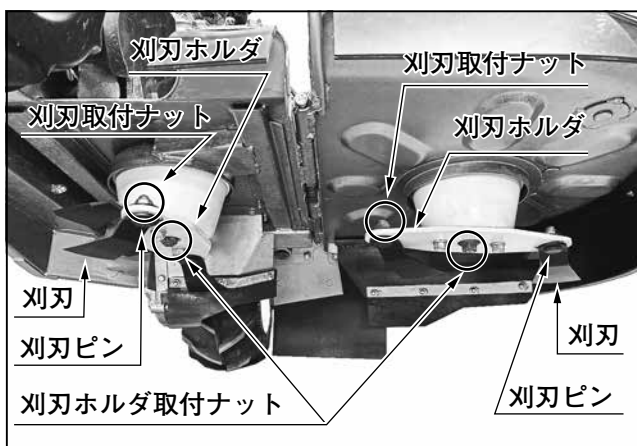
⚠ 警告

* 燃料コックレバーを閉じてください。



⚠ 警告

* 鋭利な物に当たっても切れにくい手袋を着用し、刃先に注意しながら作業してください。
* 点検は一人で行わず必ず二人で行なってください。ハンドルをしっかりささえてもらい前部が落下しないように下に台をかませてください。(P25参照)

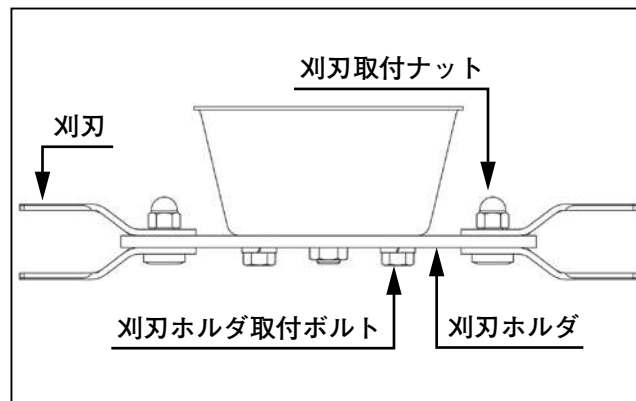


◆刈刃ホルダの点検

変形亀裂がないか点検してください。
異常がある場合は交換してください。

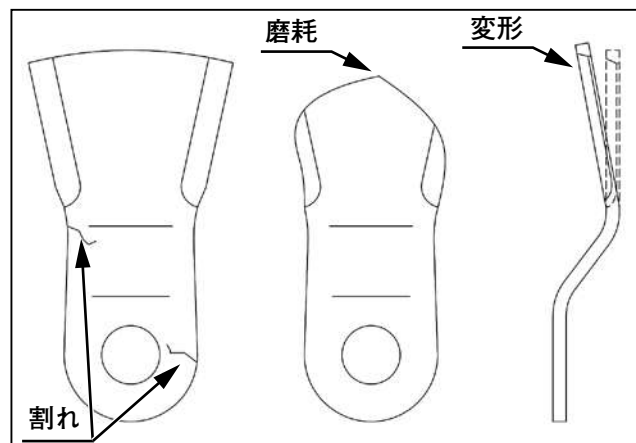
◆刈刃取付ボルト・刈刃取付ナットの点検

刈刃ホルダ取付ボルト、刈刃取付ナットにゆるみがないか点検してください。



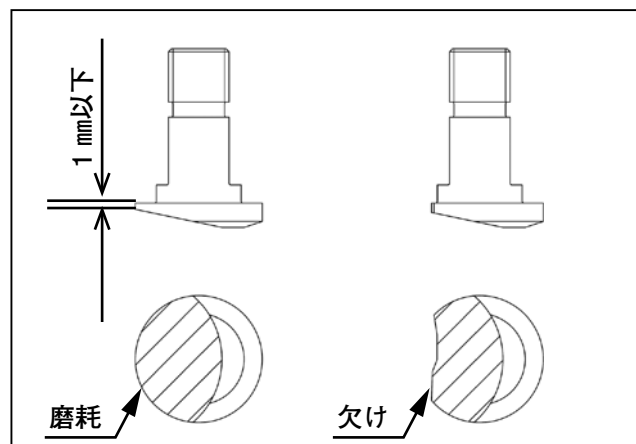
◆刈刃の点検

変形、割れ、摩耗がないか点検してください。
図のように異常な状態になった場合は交換してください。



◆刈刃ピンの点検

欠けや摩耗がないか点検してください。刈刃ピンは図のようになった場合は交換してください。



エンジンの始動と停止

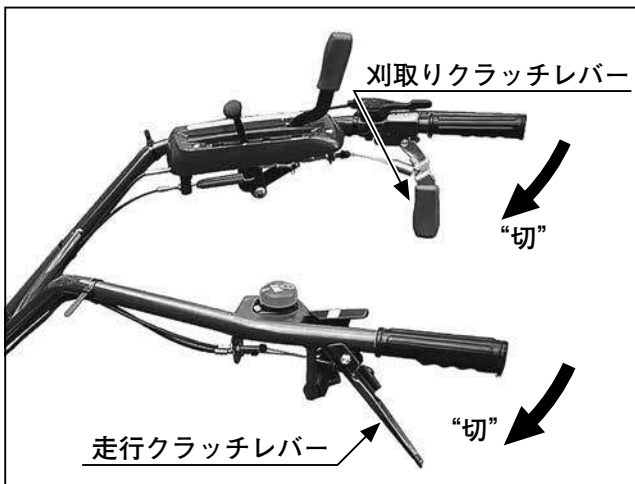
警告

- *この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
- *機体各部に貼ってある▲表示ラベルの内容を必ずお読みください。
- *周囲の人に合図をし、始動操作は、機体が動かないよう片手でハンドルを持って行なってください。
- *エンジンを始動するときは、走行クラッチレバー、刈取りクラッチレバーを“切”の位置にして、始動してください。
- *エンジン排気ガスによる、排気ガス中毒をさけるため、換気が悪い納屋や倉庫でエンジンをかけないでください。
- *近くに人を近づけないでください。
- *ヤケド防止のため、運転中・エンジン停止後15分はエンジン本体、マフラなどに触れないでください。
- *運転中は点火プラグやプラグコードに触れないでください。感電するおそれがあります。

始動のしかた

1 各種レバー位置を確認する

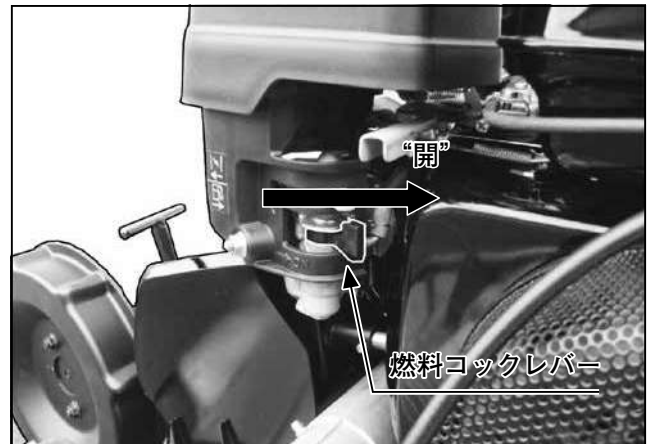
- ① 走行クラッチレバーと刈取りクラッチレバーが“切”の位置にあることを確認してください。



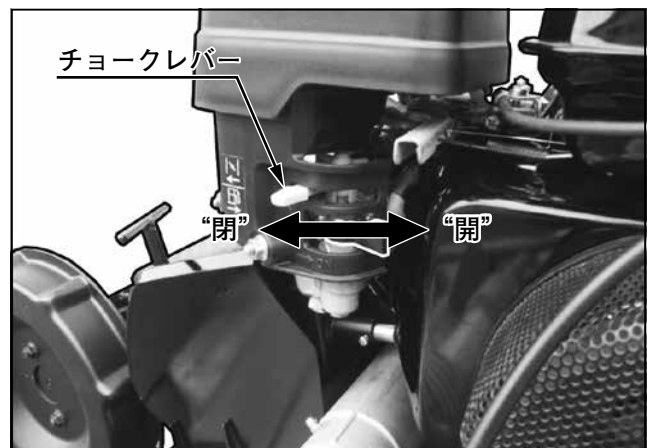
補足

- *レバーを“入”にしたときに動力が伝達され、“切”にしたときに動力伝達が断たれます。
- *刈取りクラッチレバーが“切”の位置にないとエンジンは始動できません。

- ② 燃料コックレバーを“開”(OPEN)にします。



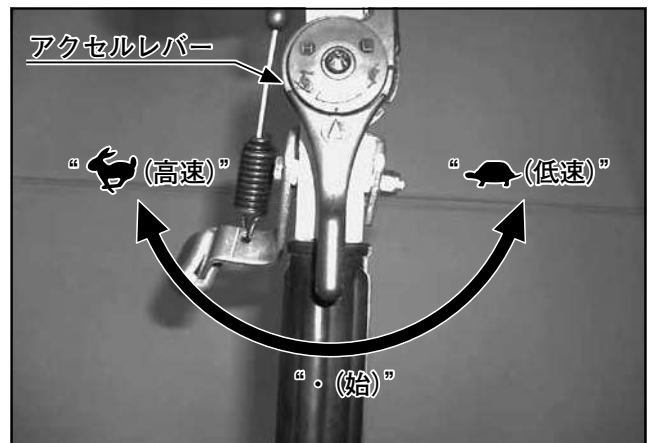
- ③ チョークレバーを“閉”の位置にします。



補足

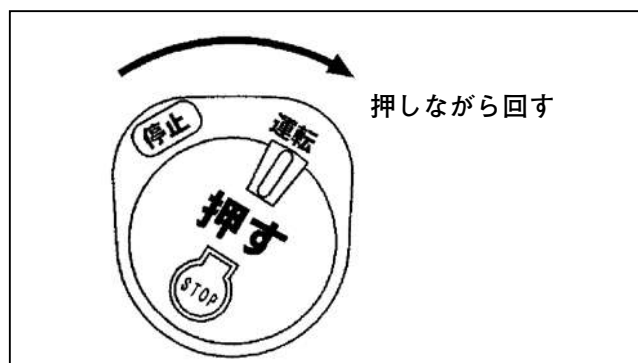
- *エンジンが暖まっているときは、チョークレバーの操作は必要ありません。

- ④ アクセルレバーを“●(始)”の位置にします。



2 エンジンスイッチを操作する

エンジンスイッチを“運転”の位置にします。



3 リコイルスタータのノブを引く

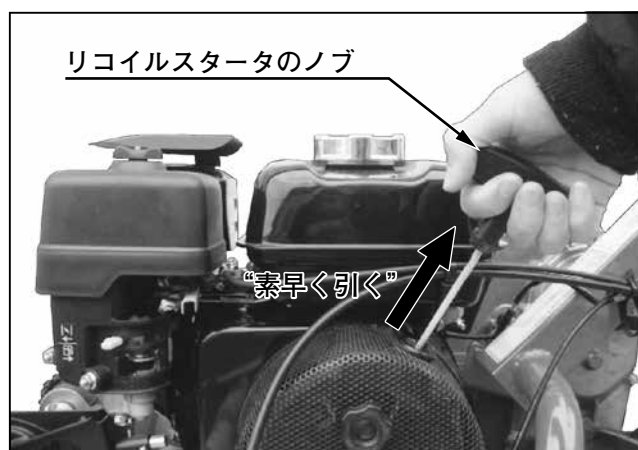


警告

* リコイルスタータのノブを引く方向に人がいないか、また突起物や障害物がないかを確認してから始動してください。

* ノブを引っ張る際は、ハンドル位置に立ち、機体が動かないように片手でハンドルを持って行ってください。

- 1 リコイルスタータのノブを握って素早く引いてください。スタータに無理をかけないように、ロープは最後まで引き切らずにノブを持ったまま戻してください。



- 2 エンジンを始動したら、チョークレバーを“開”位置にしてください。

補足


- * エンジン始動後、約3分間負荷をかけないで暖気運転してから作業に入ってください。
- * エンジンの回転速度を上げるときに、アクセルレバーはゆっくりと操作してください。

停止のしかた



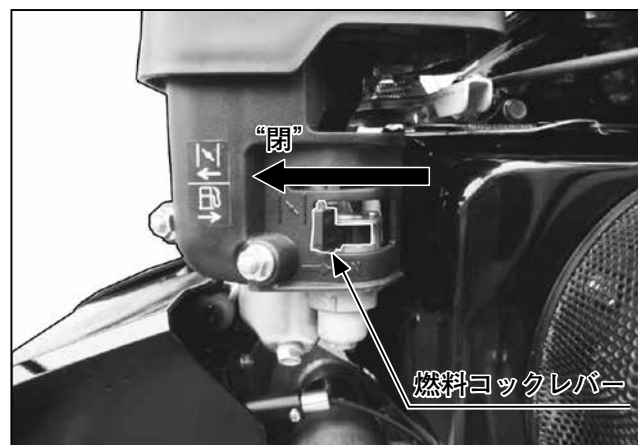
警告

* 緊急時は間を置かずにエンジンの停止操作をしてください。

- 1 アクセルレバーを“ (低速)”の位置にしてください。
- 2 エンジンスイッチを“停止”の位置にすると、エンジンは止まります。



- 3 燃料コックレバーを“閉” (CLOSE) にします。



重要

* 緊急時を除いて、高速回転のままエンジンで停止しないでください。

草刈機の運転

移動走行について



警告

- *この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
- *機体に貼ってある▲表示ラベルの内容を必ずお読みください。

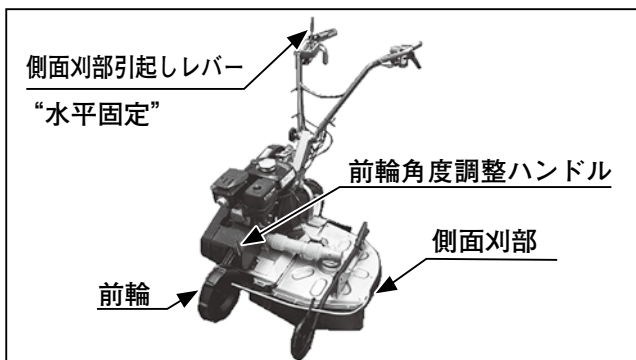
■走行のしかた



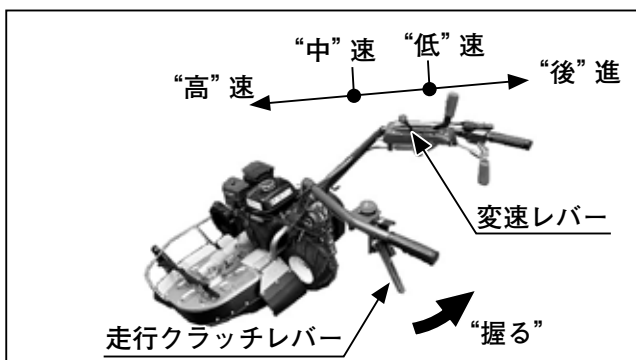
警告

- *周囲の人に合図をし、安全を確認してから走行操作を行ってください。
- *坂道・傾斜地で旋回はしないでください。
- *移動は刈取りクラッチレバーが“切”の位置で行ってください。

- ①機械を移動するときは、側面刈部引きしレバーを“水平固定”位置にし、側面刈部を水平にします。前輪角度調整ハンドルをゆるめて前輪を直進方向へ向け、締付けます。



- ②エンジンを始動してください。(P10“始動のしかた”の項参照)
- ③変速レバーを“低”速・“中”速・“高”速・“後”進いずれかの位置にし、走行クラッチレバーを握ると動き出します。



重要

- *変速レバーの切換えは必ず走行クラッチレバーを離して“切”の位置で行なってください。

補足

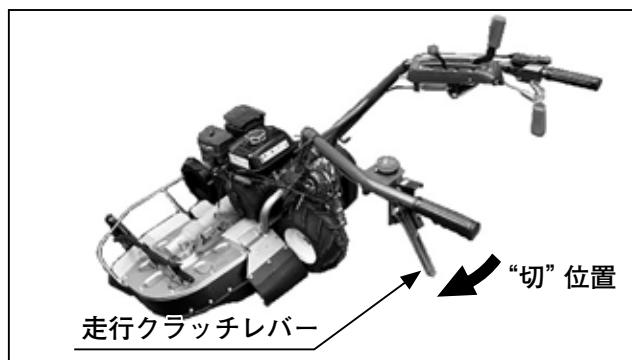
- *変速レバーはアクセルレバーを“低”にしてから素早く切換えてください。切換時にギヤ鳴りすることがありますが、機械の異常ではありません。

■停車のしかた



注意

- *停車する場合は、平たんな安定した場所にしてください。
- ①走行クラッチレバーから手を離して“切”の位置にします。



- ②エンジンを停止させる。(P11“停止のしかた”の項参照)

重要

- *走行クラッチレバーを“切”の位置にしてもクラッチが切れない場合は異常です。走行クラッチワイヤの点検・調整をしてください。(P27“各ワイヤの点検・調整”の項参照)

トラックへの積込み・積降し



警告

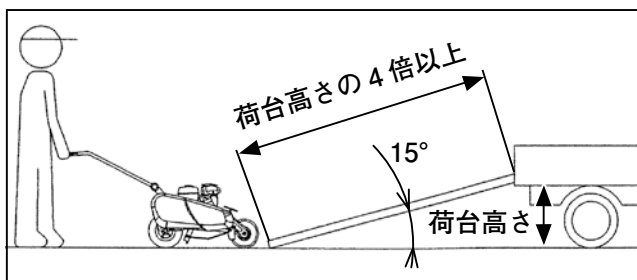
- * 積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキを確実に掛けてください。
- * トラックへの積込み・積降しは、平地で行なってください。
- * 機械の前後に人を近づけないでください。
- * 刈取りクラッチレバーは必ず“切”にしてください。
- * 側面刈部引きレバーを“水平固定”の位置にして、側面刈部を水平状態にしてください。

■ あゆみ板での積込み・積降し





警告

- * あゆみ板はフックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また、あゆみ板は、荷台高さ4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準にあったものを使用してください。
- * トラックへの積込みは変速を“低”速にして行ってください。
- * あゆみ板は安定していることを確認してください。
- * トラックへの積込み・積降しの際、あゆみ板の上で走行クラッチレバーを“切”にしないでください。“切”にすると機械が自重で急激に降下します。
- * トラックへの積込み・積降しの際、あゆみ板の上で刈取りクラッチレバー、変速レバー、側面刈部引きレバーは絶対に操作しないでください。転落するおそれがあります。




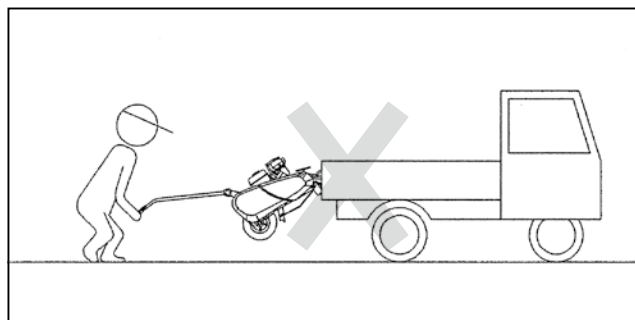
あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	30cm以上
耐荷重	200kg以上

- ① 積込みはエンジンをかけ、変速レバーを“低”速、アクセルレバーを“ (低速)”位置にして前進で行なってください。
- ② 積降しはエンジンをかけ、変速レバーを“後”進、アクセルレバーを“ (低速)”位置にして後進で降してください。

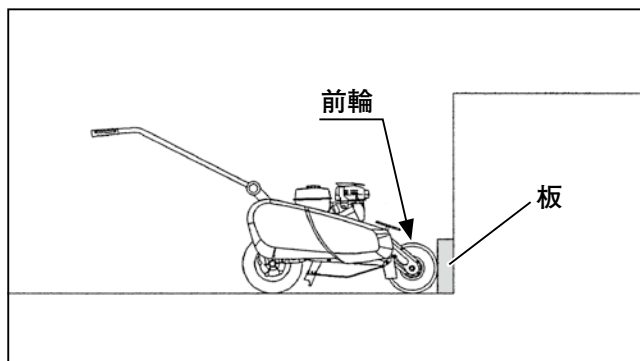
重要

- * あゆみ角度が15°以下になる長さのあゆみを使用し、エンジンをかけ、変速レバーを“後”進、アクセルレバーを“ (低速)”位置にして後進で降してください。走行クラッチレバーを“切”にして急激に降すと後輪に衝撃がかかり、変形するおそれがあります。
- * 直接の積込み・積降しは落下などの衝撃により、機械が損傷・変形します。

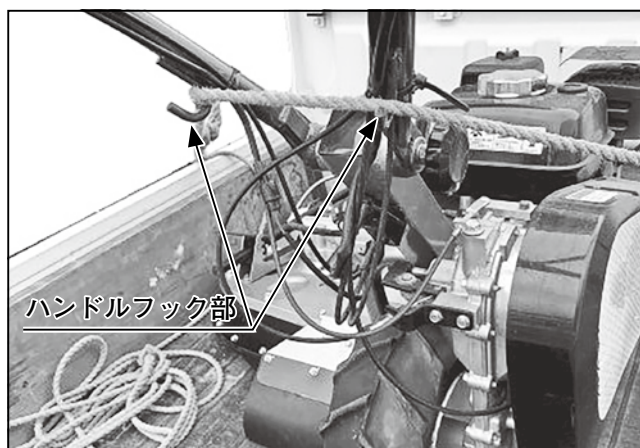
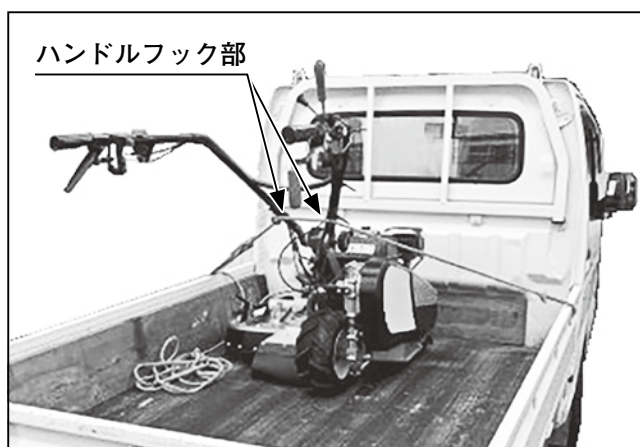


■ 輸送時の固定のしかた

- ① 本機前輪を、トラック荷台前方につき当てます。このとき、前輪に板などはさみ、トラックや機械に傷がつかないようにしてください。



- ② ハンドルフック部を左右前方へロープで固定します。

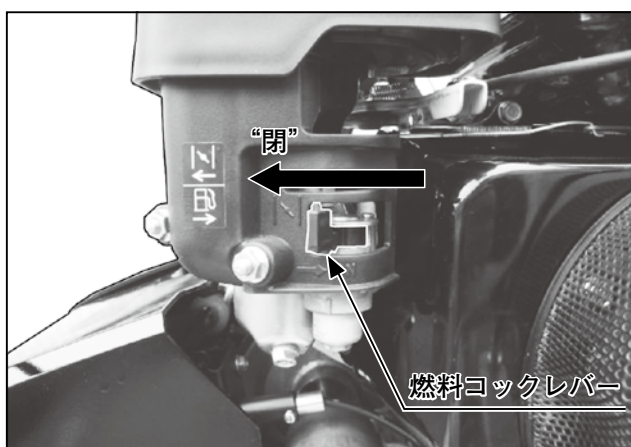


重要

- *ロープを掛けるときは、各ワイヤを挟まないようにしてください。
- *機体が固定されていることを確認してから輸送してください。

警告

- *本機を輸送するときは必ずエンジンを停止し、燃料コックレバーを“閉”状態にしてください。燃料漏れにより、こぼれた燃料に引火するおそれがあります。
- *必要以上に本機を傾けないでください。燃料が漏れだす恐れがあります。

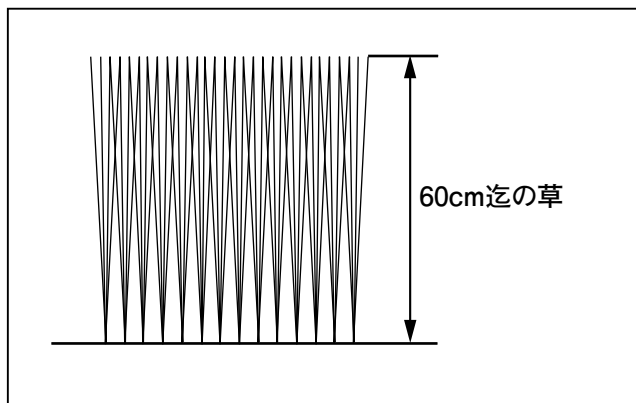


上手な草刈り作業のしかた

作業ができる草丈と畦形状

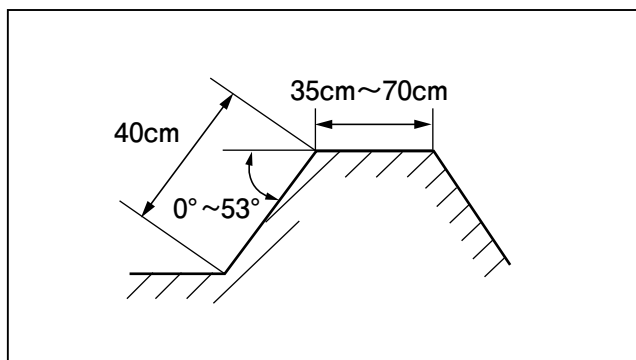
■草丈の条件

草丈は60cm迄



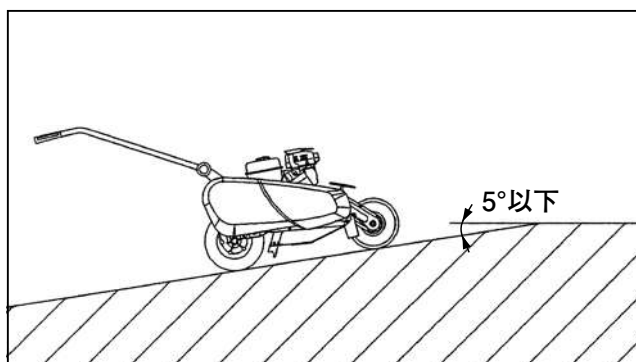
刈跡が悪い時は、2度刈りをしてください。
木は刈れません。

■畦形状の条件



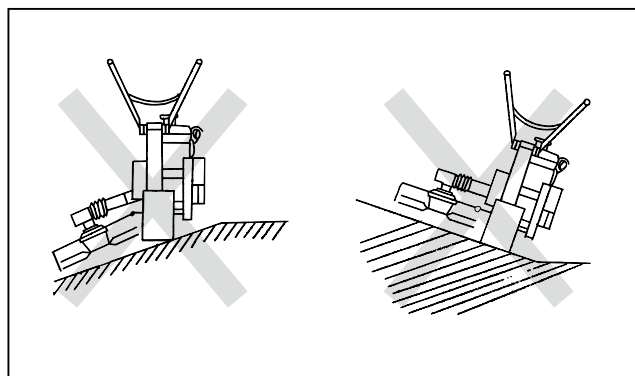
⚠ 警告

- * 傾斜が5°以上の場所では作業しないでください。
- * 傾斜が5°以下の場所で上り、下り方向の作業をしてください。



⚠ 警告

* 下図のように本機を傾斜面に入れての作業はしないでください。方向のコントロールができないばかりでなく、足を滑らせ思わぬ事故になるおそれがあります。



補足

* 地面が柔らかいと、車輪が沈みスリップして、作業できないことがあります。作業前に地面の状態を確認してください。

草刈り作業のしかた

⚠ 危険

- * 作業中には、刈刃や回転部に、手や体を絶対に近づけないようにしてください。
- * 機械の周囲に人を近づけないでください。飛散物が当たりケガをするおそれがあります。

⚠ 警告

- * 機体を25°以上傾けると燃料がもれます。火災防止のため機体を25°以上傾けないでください。
- * 降雨時または、雨上がり後や露の多いときは、すべりやすいので、地面がかわいてから作業をしてください。
- * 夜間作業はしないでください。
- * 異常音、異常振動、不具合が発生したときは、エンジンを必ず停止してください。
- * 外装品（安全カバー）を取外しての作業は絶対にしないでください。
- * 小石やその他の異物は飛散しケガをするおそれがあります。作業前に取除いてください。障害物はその位置を確認した後、目印を立てて接近しないよう注意してください。

警告

- *作業中は必ず保護メガネやスネ当てなどの保護具を着用してください。
- *エンジンを始動したり、各クラッチを入れるときは、共同作業者に合図して、安全を確認してください。
- *作業を終えてカバーを機械にかけるときは、火災の原因になることがありますので、エンジン、マフラがじゅうぶん冷えてからにしてください。
- *後進での草刈り作業は、行なわないでください。

重要

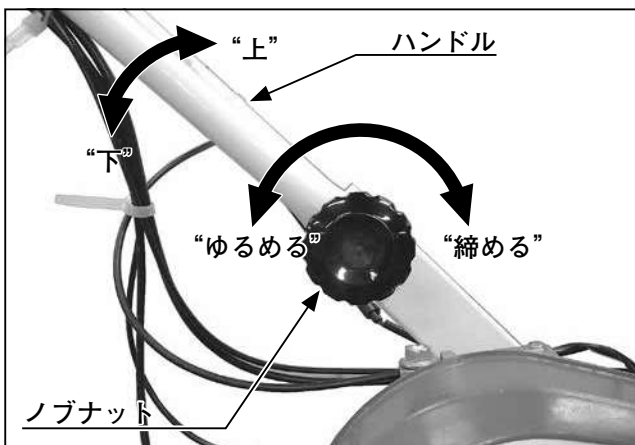
- *作業中、石や杭等の障害物に刈刃を強烈に当てると機械保護のためセットピンやキーが切れますが、場合によっては機械が破損することもあります。障害物には目印をたて、その場所を避けてください。

ハンドル高さ調節

警告

- *調節時は必ずエンジンを停止してください。

ハンドル高さは調節することができます。ノブナットをゆるめてハンドルを上下させて作業者に合わせて調節してください。調節後は確実に締付けてください。



上面刈高さ調節

警告

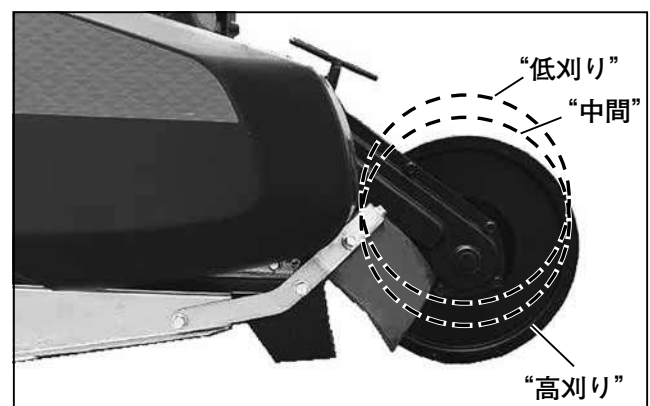
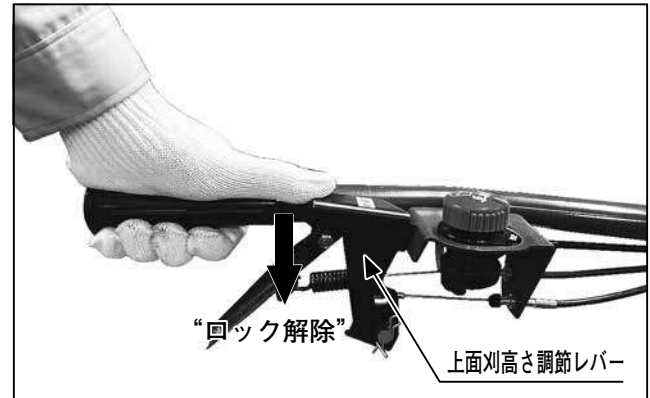
- *調節時は必ずエンジンを停止してください。

上面刈高さは、3段階の位置に調節することができます。草のボリューム、地形の凹凸など作業状態に合わせて調節してください。

上面刈高さは、ハンドルを押し下げて上面刈高さ調節レバーでロックを解除し、前輪が最下位置でロックす

ると“高刈り”となり、最上位置でロックすると“低刈り”になります。

“高刈り”位置と“低刈り”位置の間でロックすると“中間”位置となります。



重要

- *ハンドルを持ち上げて、上面刈高さ調節レバーを操作しないでください。

側面刈高さ調節

警告

- *調節時は必ずエンジンを停止してください。
- 側面刈高さ調節レバーを握り、刈高さを調節します。草のボリューム、地形の凹凸など作業状態に合わせて調節してください。



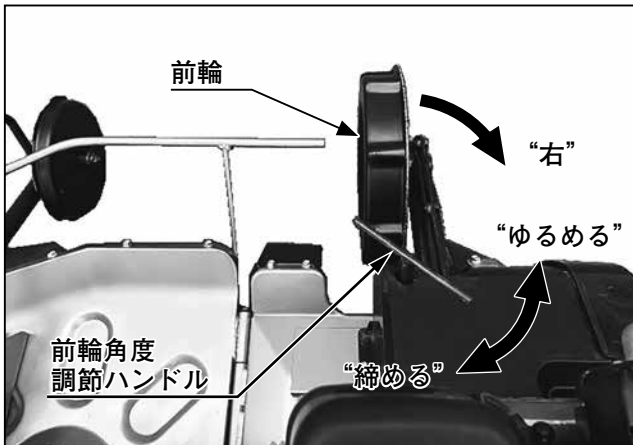
■前輪の角度調節



警告

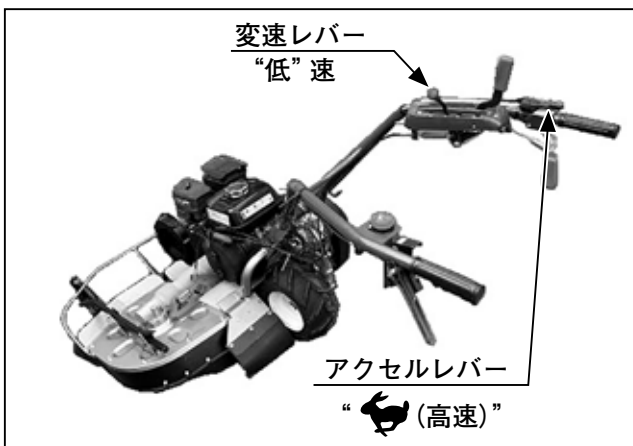
* 調節時は必ずエンジンを停止してください。

側面刈部に抵抗がかかり、機体の進行が左側へ寄る場合は、前輪角度調節ハンドルをゆるめ、前輪の角度を右側へ向けます。草のボリュームなど作業状態に合わせて角度を調節してください。調節後は確実に締付けてください。

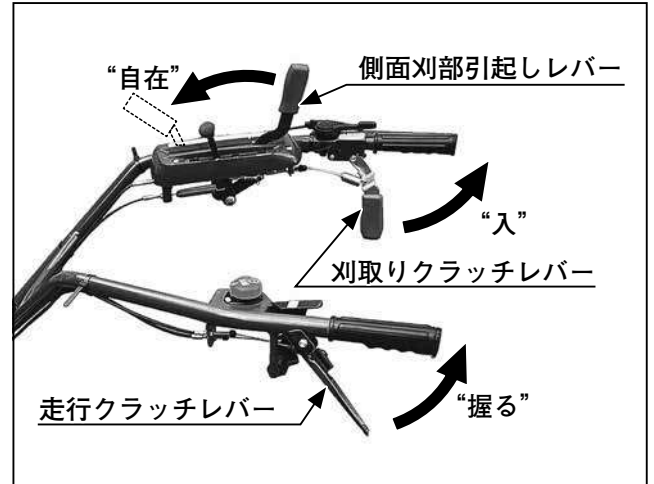


■基本操作

- ① エンジンを始動してください。(P10“始動のしかた”の項参照)
- ② 変速レバーを“低”速位置にしてください。
- ③ アクセルレバーを“ (高速)”の位置にしてください。



- ④ 刈取りクラッチレバーを“入”にし、刈刃を回転させてください。
- ⑤ 側面刈部引起しレバーを“自在”の位置にし側面刈部を側面に倒してください。
- ⑥ 走行クラッチレバーを握り、足元に注意して草刈り作業をしてください。



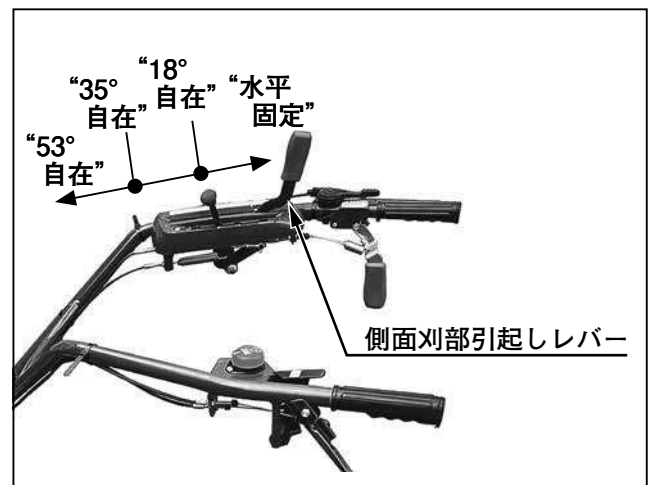
- ⑦ 作業が終了したら停車させます。
(P12“停車のしかた”の項参照)

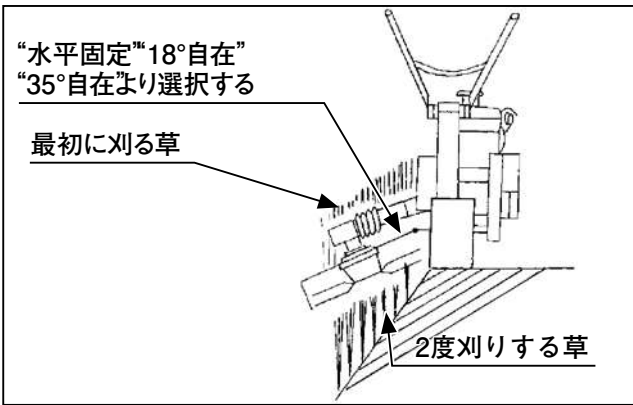
■重要

- * 安全のため最初は低速から始め、安全確認の上、作業条件に合った速度（低・中・高）で作業してください。
- * 機体が谷側へ傾き、ハンドルがとられるときはすぐに刈取りクラッチ及び走行クラッチを切り、機械を停止させてください。
- * つる草が巻きついたりその他異物が絡まった場合は、すぐにエンジンを止め、それらを取除いてください。

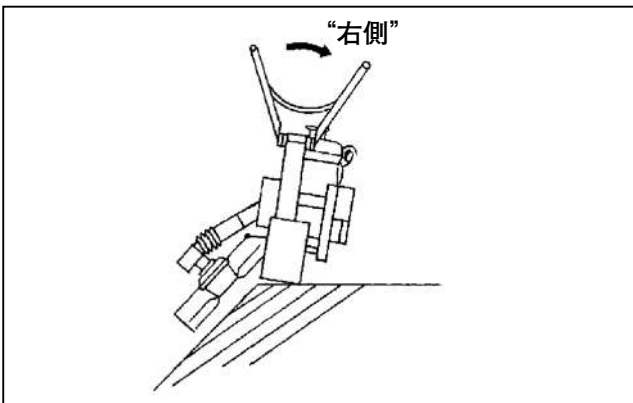
■畦草刈り作業のしかた

草が長く、側面刈部に抵抗がかかるときは側面刈部引起しレバーで“水平固定”“18°自在”“35°自在”のいずれかを選択し、高刈りしてください。その後、2度刈りしてください。





機体を少し右側へ傾け気味に運転すると機体の進行方向がコントロールしやすくなります。



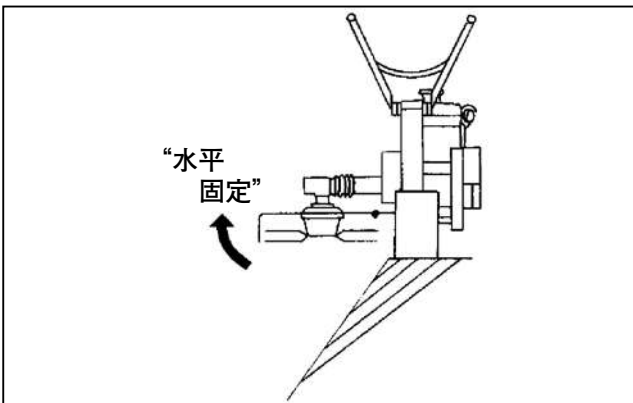
■溝越えのしかた



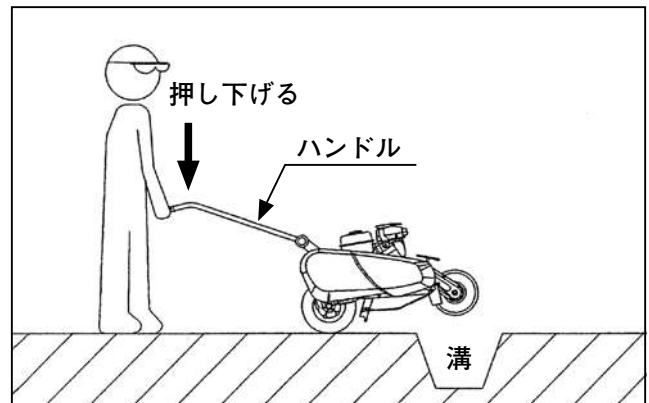
警告

*溝越えするときは、刈取りクラッチレバーを必ず“切”にしてください。また、変速レバーを“低”速位置にしてください。

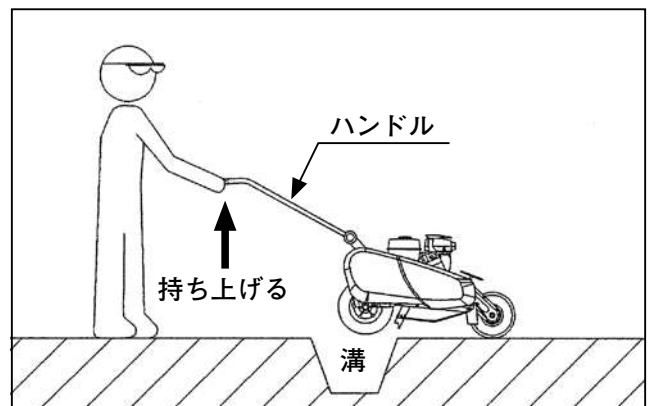
①側面刈部引起しレバーを“水平固定”の位置にし側面刈部を水平に固定します。



②ハンドルを押し下げて前輪を浮かせて走行クラッチレバーを握り前進します。



③前輪が溝を越えた後ハンドルを持ち上げ、後輪を浮かせて走行クラッチレバーを握り前進します。



■畦上でのターンのしかた

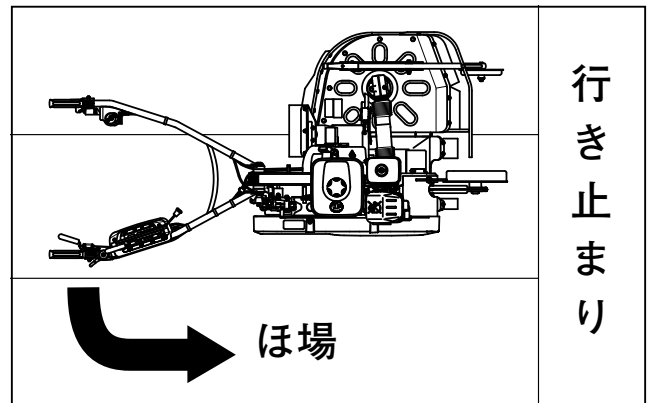


警告

*ターンするときは、刈取りクラッチレバーを必ず“切”にしてください。

*側面刈部引起しレバーを“水平固定”の位置にして、側面刈部を水平状態にしてください。

畦上でターンをする場合は、ほ場に入りハンドル操作をしてください。



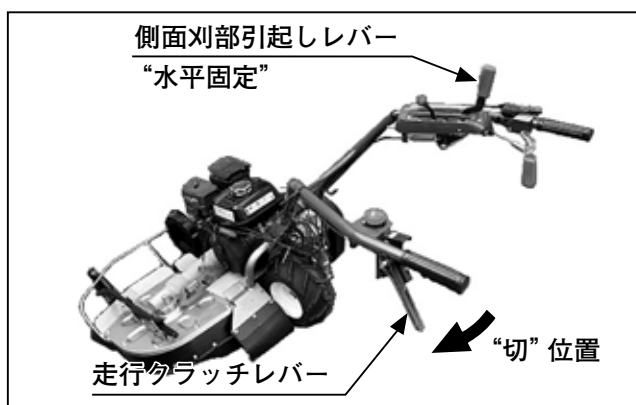
■ 駐車のかた



警告

* 駐車する場合は、平たんな安定した場所にしてください。

- ① 走行クラッチレバーから手を離して“切”の位置にします。
- ② 側面刈部引きレバーを“水平固定”の位置にして側面刈部を水平にします。



- ③ エンジンを停止させる。（P11“停止のかた”の項参照）

補足

* 駐車する場合は、上面の草刈り高さを“高刈り”の位置にすると機体が安定します。

（P16“上面刈高さ調節”の項参照）

メンテナンス

洗車時の注意

高压洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高压洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。



注意

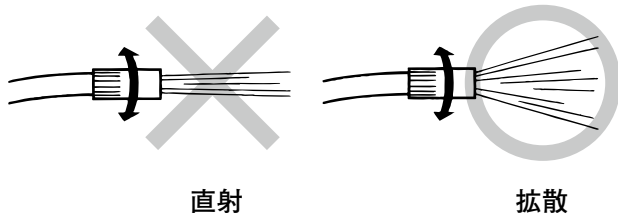
* 洗浄ノズルを拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、電気配線部被覆の損傷・断線により、火災のおそれがあります。

重要

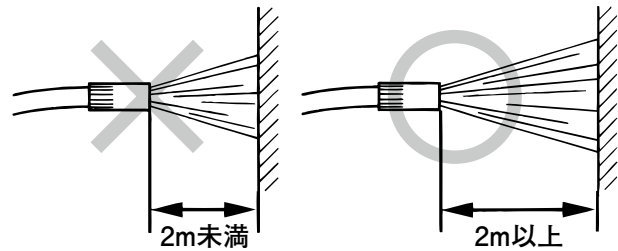
* 洗車のしかたが不適切な場合、以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。

- 例) (1)シール・ラベルの剥がれ
 (2)エンジン内部への侵入による故障
 (3)タイヤ・オイルシール・飛散防止カバーなどのゴム類、樹脂類の破損
 (4)塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



近距離洗車厳禁



定期点検と処置



警告

- * エンジンは、必ず停止してください。
- * 作業中は火気厳禁です。
- * 取外したカバー類は、必ず取付けてから作業をしてください。
- * 機械は平たんで、周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。配線及びマフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着・たい積などがあると火災の原因となります。
- * ヤケド防止のため、エンジンがじゅうぶんに冷えてから作業を行なってください。
- * 燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
- * 燃料キャップは確実に締めてください。

重要

- * ベルト類は亀裂又は帆布のはがれたとき必ず交換してください。
- * 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた購入先にご相談ください。
- * オイルを点検・補給・交換するときはエンジンが水平になるように刈高さを調整してください。傾いていると正確なオイル量の点検・補給・交換ができません。
- * 使用するエンジンオイル、ミッションオイルは、指定のオイルを必ず使用してください。

補足

- * 定期点検は、次頁の点検・交換一覧表に基づき行ってください。
- * 定期点検・交換一覧表に示す時間は一般的な目安です。異常を感じたときはそのつど、調整または交換をしてください。

■定期点検・交換一覧表

※：毎作業前点検

○：点検と調整・掃除・締付け

△：交換

点検箇所・項目	時 間		点検・交換時期										参 照 ページ	
	点検	交換	時 間								それ以降			
			25	50	75	100	125	150	175	200	点 検	交 換		
エンジン部	エアクリーナ(サイクロン)※	掃除	交換	毎作業前						△	毎作業前	200時間ごと	7	
	リコイルカバー ※	掃除	-	毎 作 業 前						毎作業前	-	8		
	マフラ周辺部 ※	掃除	-	毎 作 業 前						毎作業前	-	8		
	点火プラグ	点検	-				○				○	100時間ごと	-	29
	燃料カップ	点検	-	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	-	28
	燃料パイプ	点検	交換	25時間ごと点検, 1年ごと交換						25時間ごと	1年ごと	28		
	リコイルカバー内部	掃除	-	25時間ごと, 及び作業シーズンごと清掃						25時間ごと	-	28		
走行・操作部	走行ベルト	点検	交換	○	△	○	△	○	△	○	△	25時間ごと	50時間ごと	26
	走行クラッチワイヤ	調整	-	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	-	27
	刈取りクラッチワイヤ	調整	-	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	-	27
	側面刈部引起しワイヤ	調整	-	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	-	27
	変速ワイヤ	調整	-	○	○	○	○	○	○	○	○	25時間ごと	-	27
	タイヤ ※	点検	調整	毎 作 業 前						毎作業前	-	31		
刈取部	刈刃ベルト	点検	交換	○	△	○	△	○	△	○	△	25時間ごと	50時間ごと	26
	刈刃・刈刃ピン ※	点検	交換	○	△	○	△	○	△	○	△	毎作業前	50時間ごと	9・25
	刈刃取付けナット	点検	交換	ゆるめたら交換						毎作業前	ゆるめるとき	9・25		
	刈刃ホルダ取付ボルト ※	点検	交換	ゆるめたら交換						毎作業前	ゆるめるとき	9・25		
	飛散防止カバー ※	点検	-	毎 作 業 前						毎作業前	-	8		

■点検・注油一覧表

種 類	点 検 箇 所	処 置	点検・交換時期		容量・規定量(L)	種 類	参 照 ページ
			点 検	交 換			
燃 料	燃料タンク	給油	作業前(作業時)	-	●容量……………3.1	自動車用レギュラ ガソリン(無鉛)	7
オイル	エンジン	補給 交換	作業前	1回目20時間 その後100時 間ごと	●規定量 オイルゲージ の上限まで ……………0.6	4サイクルガソリン エンジンオイル SE級以上 SAE10W-30	7 ・ 22
	ミッションケース	補給 交換	50時間ごと	100時間ごと	●規定量 検油口からオイ ルがにじむまで ……………1.15	ギヤオイルSAE No.90	23
	前輪駆動チェーン	塗布	25時間ごと	-	適量	油	23
	シャフト(ヘンソク)	塗布	25時間ごと	-	適量	油	23
	カナグ(ヘンソク)	塗布	25時間ごと	-	適量	油	23
グリース	刈刃駆動ジョイント	塗布	作業シーズンごと	-	適量	グリース	24
	ベベルギヤケース	補給	作業シーズン後	-	適量	リチウムグリースNo.2	24

各部オイルの点検・補給・交換・注油

点検・補給・交換・注油の時期と種類については、P 21の“点検・注油一覧表”をご参照ください。



警告

*点検・調整・交換をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

エンジンオイルの点検・交換

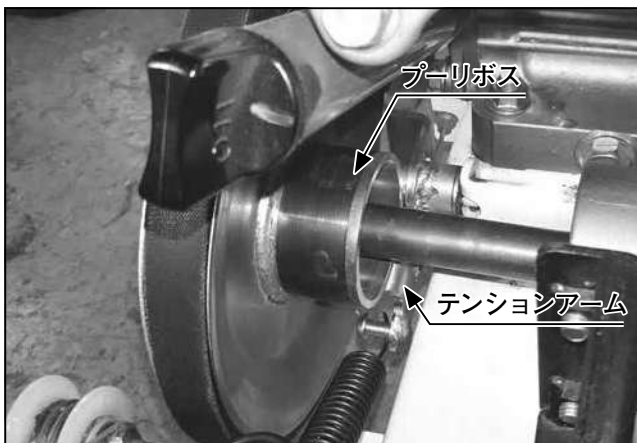


警告

*オイルの交換をするときはエンジンを必ず停止して、じゅうぶん冷えた状態で行なってください。

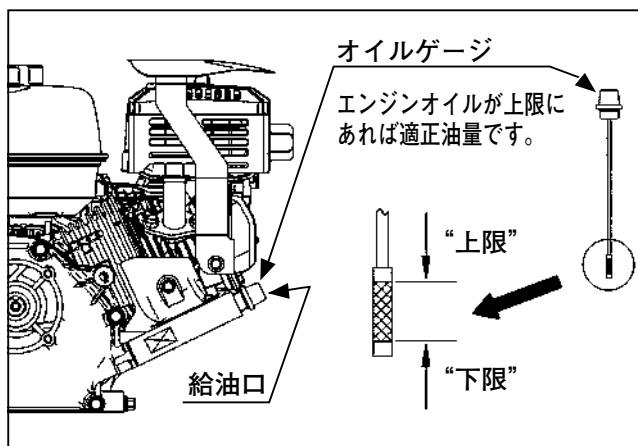
*オイル交換中は火気厳禁です。

*エンジンオイルの点検・交換をする際にプーリボス部とテンションアームにオイルを付着させないこと。付着した場合は脱脂すること。オイルが付着したまま使用すると刈刃ブレーキがきかないので危険です。



◆点検と補給 [エンジンを水平状態にして]

オイルゲージ(ネジ式)を抜いて先端をきれいにふいてから、ゲージをねじ込まずに当たるまで差し込んで油面が上限にあれば適正です。不足しているときは、オイルを上限まで補給してください。さらに油もれのないことも調べてください。



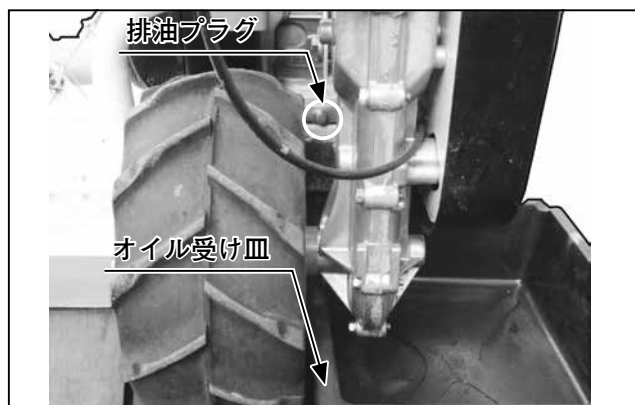
補足

*エンジンを水平状態にするときは、機体を平坦な場所に置き、上面刈部の草刈高さを中間・側面刈部の草刈高さを上から2段目にしてください。

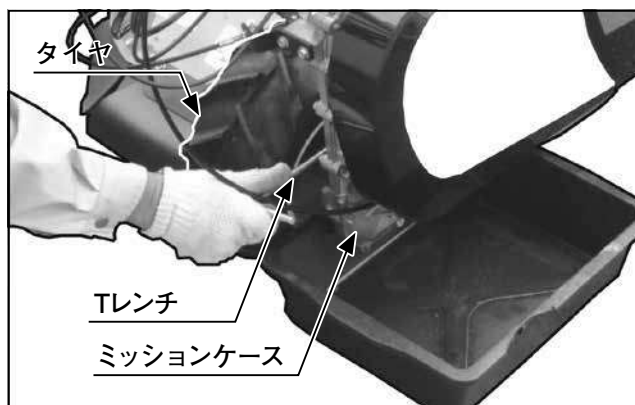
◆交換

●排油のしかた

①エンジンに付いている排油プラグの下にオイル受け皿を用意してください。



②オイルゲージを外してから、タイヤとミッションケースの間からTレンチを入れて排油プラグを外し、オイルを排出してください。オイルゲージを付けたままでは完全に排出できません。



●給油のしかた

排油プラグを締付けて、給油口から規定量給油し、オイルゲージをきちんとねじ込んでください。

重要

*エンジンオイルの補給・交換時に、ごみなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

*指定以外のオイルは使用しないでください。指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し、エンジントラブルの原因となります。

オイルの種類	オイル量
4サイクルガソリンエンジンオイル SAE 10W-30 SE級以上	0.6L

■ミッションケースオイルの点検・交換



警告

- * オイルの交換をするときはエンジンを必ず停止して、じゅうぶん冷えた状態で行なってください。
- * オイル交換中は火気厳禁です。

◆点検と補給

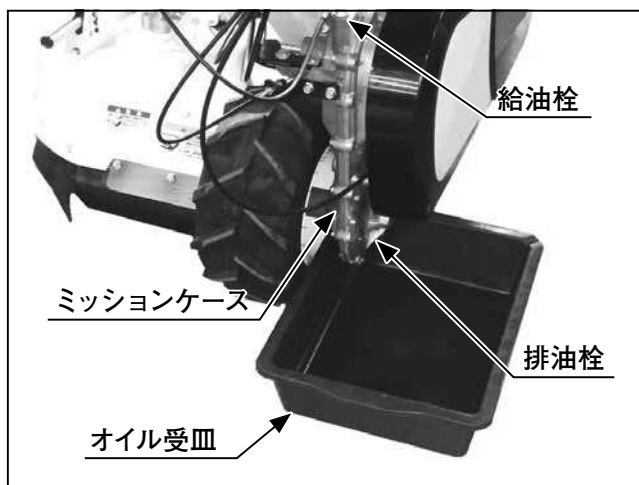
検油栓を外してオイルが出てくれば適正量です。不足しているときは、検油栓を外し検油口からオイルがにじみ出てくるまで給油口から給油してください。



◆交換

- 排油のしかた

給油栓を外して空気穴とし、排油栓を外してオイルを排油してください。このとき、オイル受皿を用意し排出してください。



- 給油のしかた

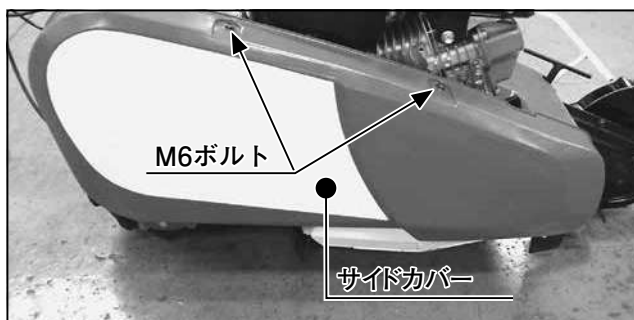
排油栓をしっかりと締付けて、検油栓を外し検油口からオイルがにじみ出るまで給油口から給油してください。

給油後は給油栓、検油栓をしっかりと締付けてください。

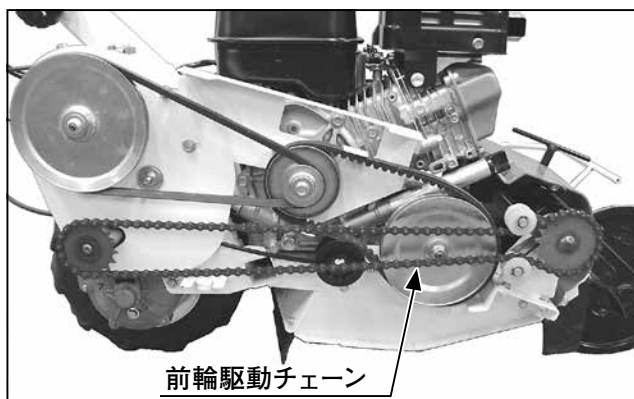
オイルの種類	オイル量
ギヤオイルSAE No.90	1.15L

■前輪駆動チェーンへの注油

- ① サイドカバーを外します。(M6ボルト2個)

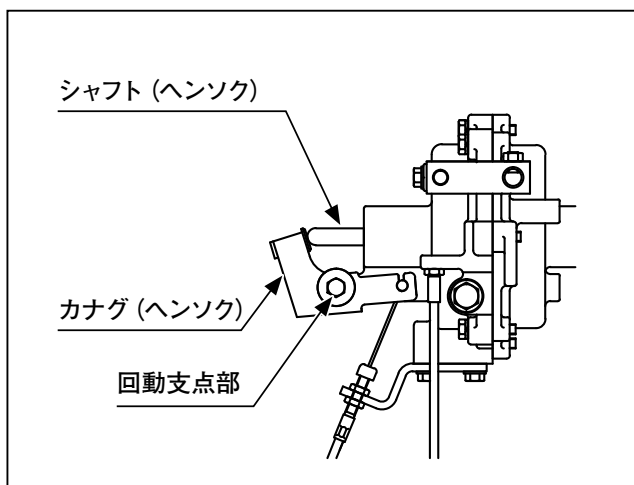


- ② 前輪駆動チェーンへ注油します。



■カナグ(ヘンソク)・シャフト(ヘンソク)への注油

- 変速位置が“高”のときシャフト(ヘンソク)の出ているところに注油します。
- カナグ(ヘンソク)の回転支点部に注油します。

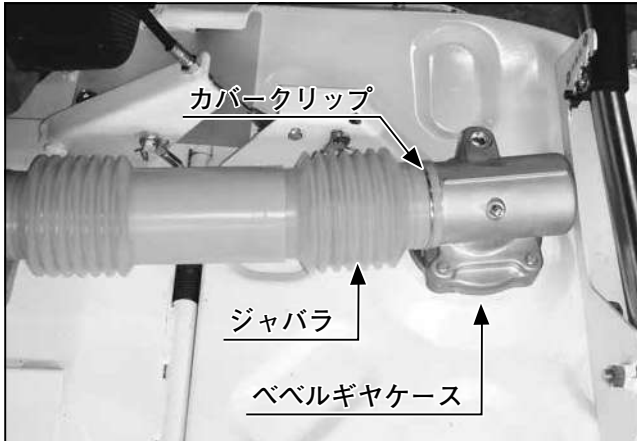


■刈刃駆動ジョイント部へのグリース

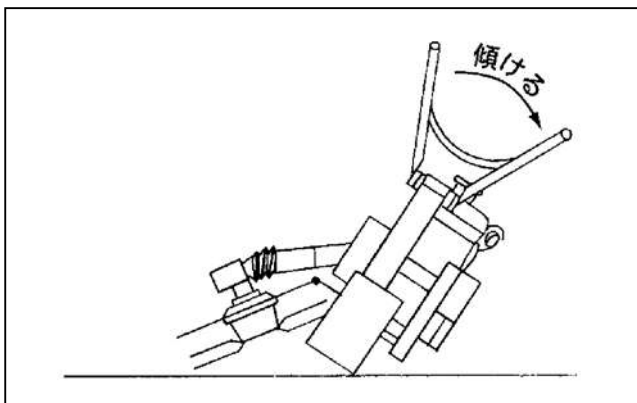
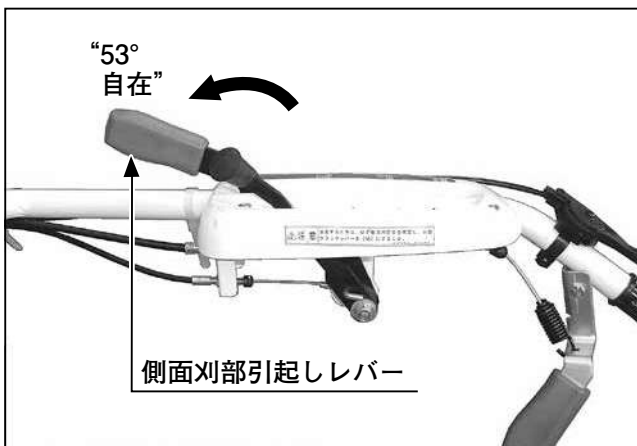


- * 燃料タンクから燃料を抜いてください。
- * 燃料コックレバーを閉じてください。
- * 作業は一人で行わず必ず二人で行なってください。
一人がハンドルをしっかりとささえてください。

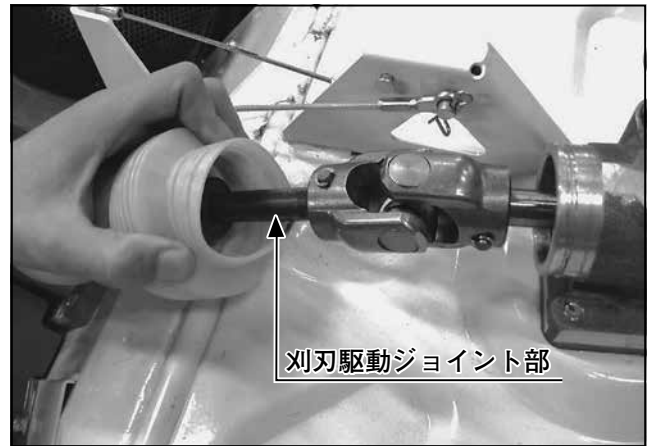
- ① カバークリップを外し、ジャバラをベベルギヤケースから外します。



- ② 側面刈部引起しレバーを“53°自在”の位置にし本機を傾けます。

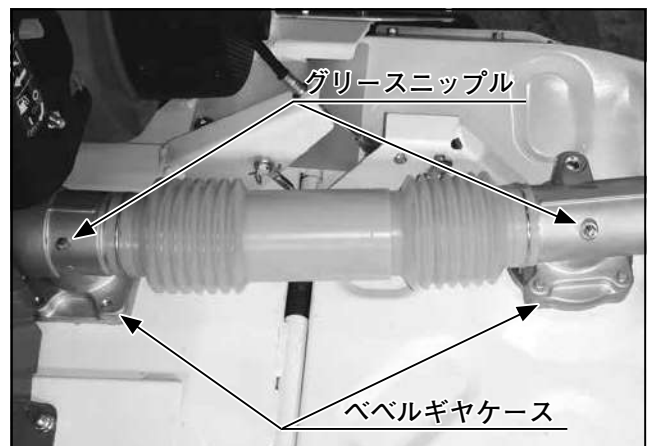


- ③ 刈刃駆動ジョイント部にグリースを塗布します。



■ベベルギヤケースへのグリース

- ① ベベルギヤケース上部のグリースニップルよりグリースを補給します。



グリースの種類
リチウムグリース No.2

各部の点検・調整・清掃・交換



警告

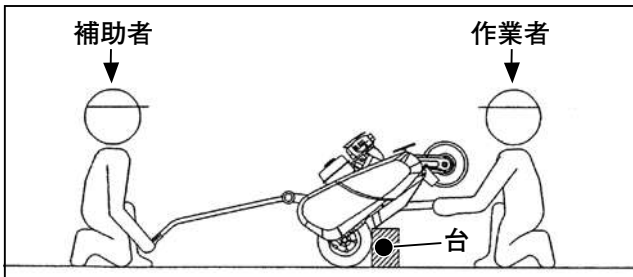
*点検・調整・清掃・交換をするときは、必ずエンジンを止めてから行なってください。

■刈刃の交換と刈刃ホルダの点検・交換



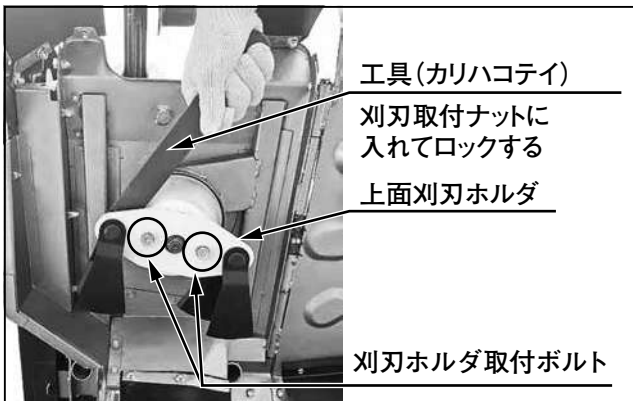
警告

- *燃料タンクから燃料を抜いてください。
- *燃料コックレバーを閉じてください。
- *刈刃の交換は購入先をお願いしてください。
- *鋭利な物に当たっても切れにくい手袋を着用し、刃先に注意しながら作業してください。
- *刈刃ホルダ取付ボルトと刈刃取付ナットにはゆるみ止め加工が施してあり、一度外すとその効果はなくなりますので、必ず新品を使用してください。
- *刈刃は、裏表1回ずつ使用できます。上刃は裏返して下に、下刃は裏返して上に組み付けることができます。ただし刈刃ホルダ取付ボルトと刈刃取付ナットは必ず新品に交換してください。
- *刈刃が摩耗して新刃と交換する際は、刈刃ピン、刈刃取付ナット、刈刃ホルダ取付ボルトも必ず同時に交換してください。
- *刈刃の交換作業は一人で行わず、必ず二人で行なってください。ハンドルをしっかりとささえてもらい前部が落下しないように下に台をかませてください。

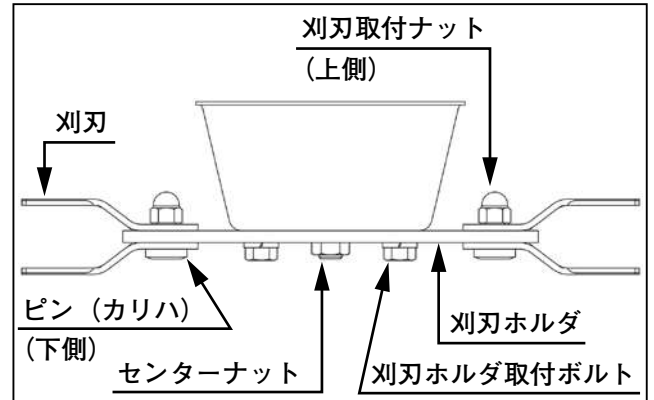


◆刈刃の交換

- ①交換する刃を工具（カリハコティ）で固定し、刈刃取付ボルト（M10）2個をゆるめて外します。



- ②刈刃取付ナット（M10）2個をゆるめて刈刃を外します。



- ③刈刃を交換し逆の要領で組付けてください。
刈刃取付ナット（M10）と刈刃ホルダ取付ボルト（M10）は新品に交換してそれぞれ50.0～56.0N・m（510～571kgf・cm）のトルクで締付けてください。

重要

- *刈刃ホルダを組付ける際は、必ずピン（カリハ）の平頭部を下側（刈刃取付ナットは上側）にしてください。
- *センターナットは外さないでください。もし外した場合は81.3～102.9N・m（830～1050kgf・cm）で締付けてください。
- *刈刃を組付けている刈刃ホルダ取付ボルト（M10）、刈刃取付ナットにはゆるみ止め加工が施してあります。一度外すとその効果はなくなりますので、必ず新品を使用してください。

参考

部品名称	品番
ボルト（M10）	5J050-4638-0
ナット（U、メック）	L6401-4136-0

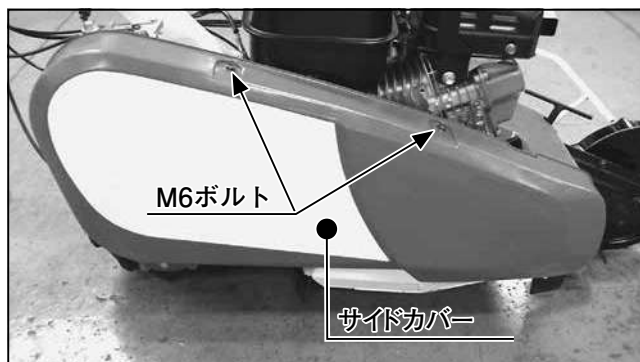
◆刈刃ホルダの点検・交換

- ①変形亀裂がないか点検してください。
- ②異常がある場合は交換してください。
（交換の仕方は“刈刃の交換”の項参照）

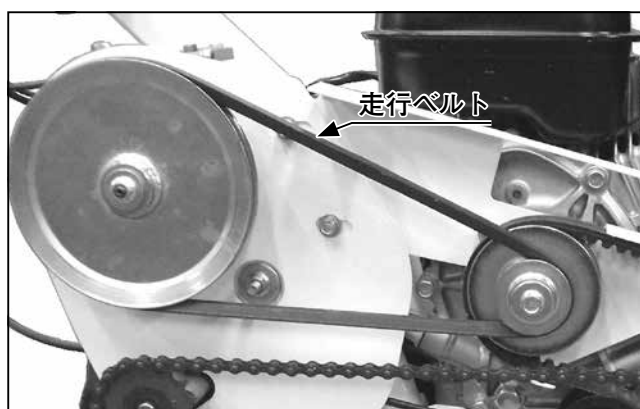
■ 走行ベルトの点検・交換・調整

◆ 点検と交換

- ① サイドカバーを外します。(M6ボルト2個)

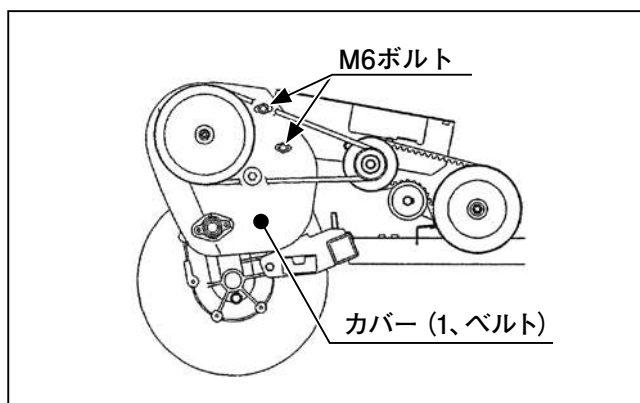


- ② ベルトが摩耗や欠損しているときは交換してください。

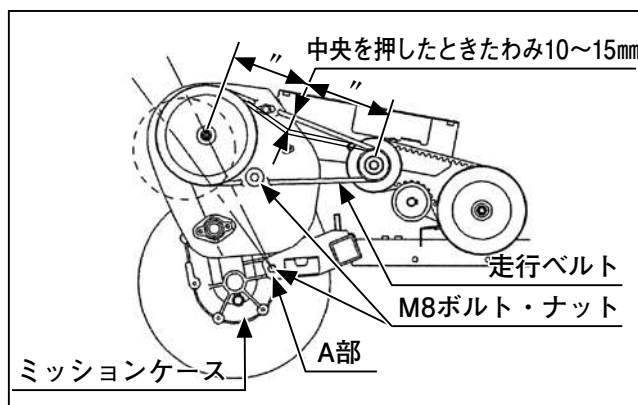


◆ 調整

- ベルトが伸びている場合は張り調整してください。
- ① カバー (1, ベルト) のM6ボルト2個をゆるめてください。



- ② M8ボルト・ナット2箇所をゆるめ、A部を中心にミッションケースを回動し、走行ベルト中央を上から49N(5kgf)で押したときのたわみ量が10～15mmになるように、調整します。



- ③ 調整後は分解の逆の順で組付けてください。

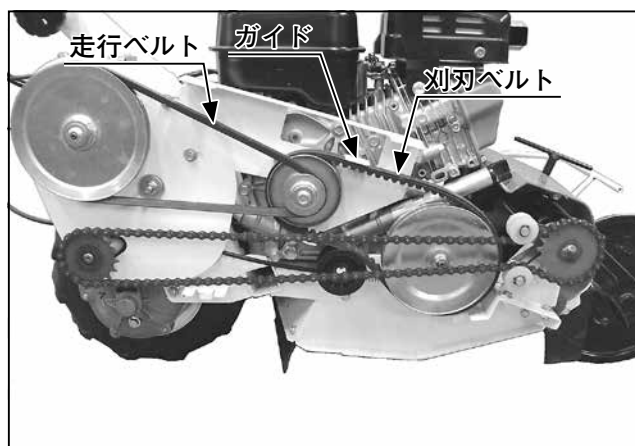
■ 刈刃ベルトの点検・交換

◆ 点検

- ① サイドカバーを外します。(P26“走行ベルトの点検・交換・調整”の項参照)
- ② ベルトが摩耗や欠損しているときは交換してください。

◆ 交換

- ① 走行ベルトを外します。



- ② チェーンテンションスプリングのフック部をチェーンテンションアームの溝部から外します。



③ 刈刃ベルトを交換し、部品を分解と逆の順で組付けてください。

ベルトはガイド部の下側を通してください。

④ 刈取りクラッチワイヤの調整を行なってください。
(P27“刈取りクラッチワイヤの調整”の項参照)

■各ワイヤの点検・調整



警告

*各ワイヤ共調整後はロックナットを確実に締付けてください。



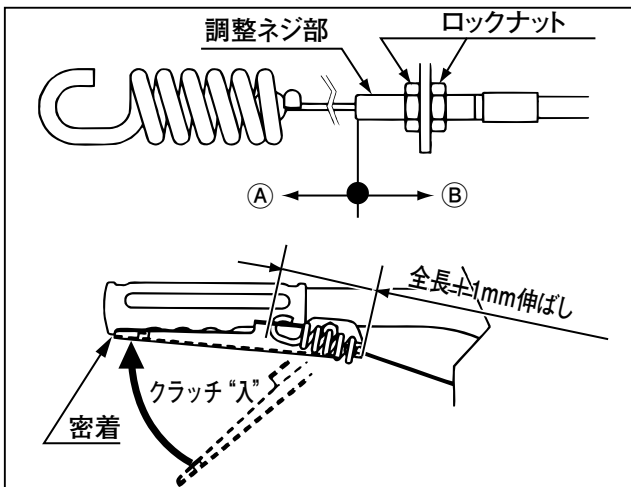
◆走行クラッチワイヤの調整

●クラッチを入れても負荷がかかると走行クラッチが外れ、走行が停止する場合。

…調整ネジ部を②の方向へ移動し、スプリングの伸び寸法が1mmとなるように調整します。

●クラッチを切っても走行が停止しない場合。

…調整ネジ部を①の方向へ移動し、スプリングの伸び寸法が1mmとなるように調整します。



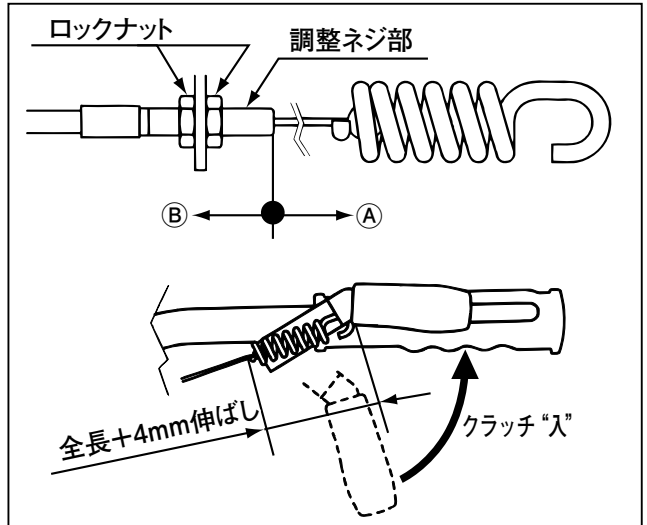
◆刈取りクラッチワイヤの調整

●クラッチを入れても負荷がかかるとベルトがスリップして刈刃の回転が停止する場合。

…調整ネジ部を②の方向へ移動し、スプリングの伸び寸法が4mmとなるように調整します。

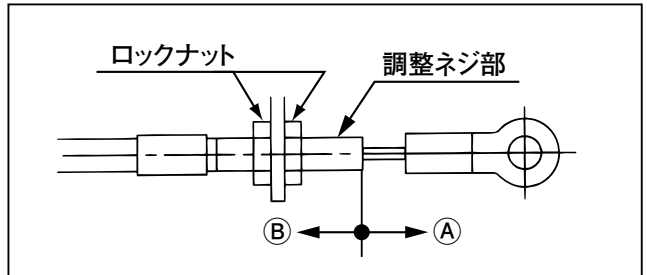
●クラッチの切れが悪く刈刃の回転が停止しない場合。

…調整ネジ部を①の方向へ移動し、スプリングの伸び寸法が4mmとなるように調整します。



◆側面刈部引起しワイヤの調整

●“水平固定”の位置にしたとき、側面刈部が上面刈部のフレームに対し水平より下がった場合は調整ネジ部を②の方向へ、上がった場合は①の方向へ移動させて水平になるよう調整します。

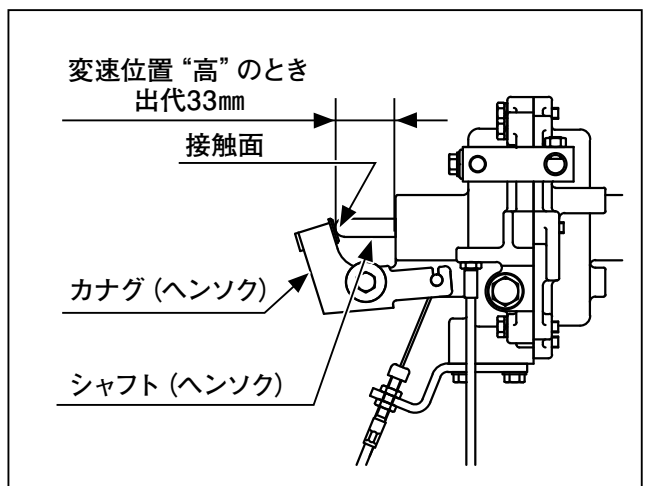


◆変速ワイヤの調整

●変速の切り替えができなくなった場合。

…変速位置が“高”のときシャフト（ヘンソク）とカナグ（ヘンソク）の接触面が軽接触するように調整します。

参考値：シャフト（ヘンソク）の出代…33mm



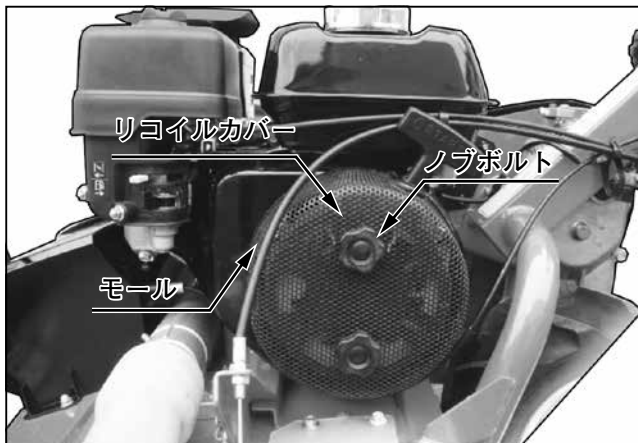
■リコイルカバー内部の清掃



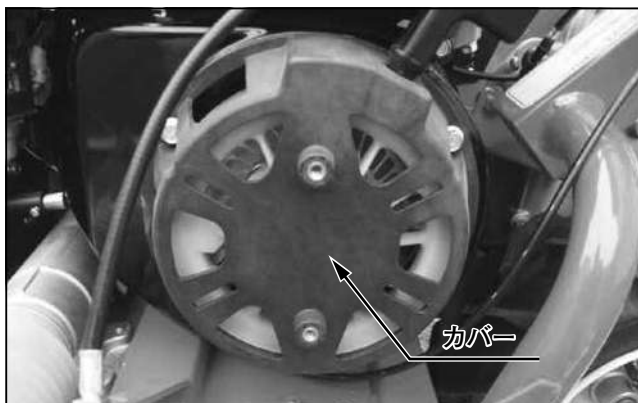
警告

*リコイルカバー内部がほこりやごみでつまるとエンジンがオーバーヒートして火災を起こす恐れがあります。必ず点検し、清掃してください。

- ①リコイルカバーを外します。(ノブボルト2個)



- ②内部のカバーに付着しているほこり、ごみなどを取除いてください。



重要

*リコイルカバーを外した際、モールが外れる場合があります。モールは必ず取付けてから組付けてください。
*ほこり、ごみが溜まるとオーバーヒートや故障の原因になります。

■燃料パイプの点検



警告

*燃料パイプが損傷していると、燃料もれを起こしますので、必ず点検してください。

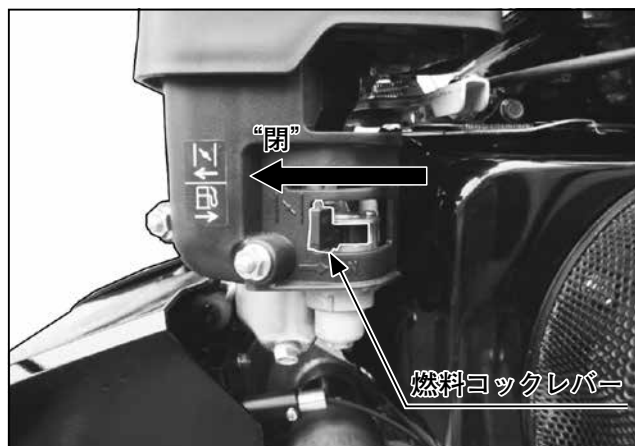
▶もし怠ると……

火災など障害事故の危険があります。燃料パイプは、使わなくとも老化する消耗品です。1年ごと又は、いたんだときには交換してください。

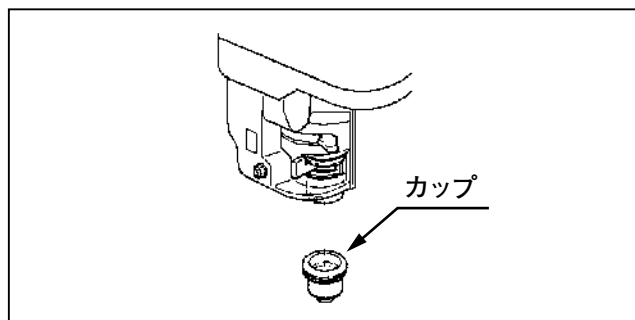


■燃料カップの清掃

- ①燃料がこぼれないように燃料コックレバーを“閉”(CLOSE)にします。



- ②カップをゆるめて取外し、カップ内部を灯油で洗浄します。



- ③洗浄後、カップを確実に締付けます。

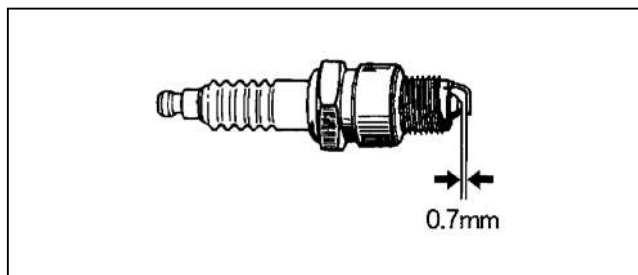
重要

*組付けるときは、ちりやほこりが付着しないように注意してください。

■ 点火プラグの点検・清掃

- ① プラグレンチを使い点火プラグを外します。
- ② 点火プラグがカーボンで汚れている場合には、プラグクリーナ、又はワイヤブラシなどで汚れを落してください。
- ③ 電極のすき間が広いときは、0.7mmに調整してください。（市販のすき間ゲージを使用するか、官製はがき3枚の厚みを目安にしてください。）

使用プラグ	NGK BP6ES
品番	LE030-10000



■ 刈刃ユニバーサルジョイント部セットピンの交換

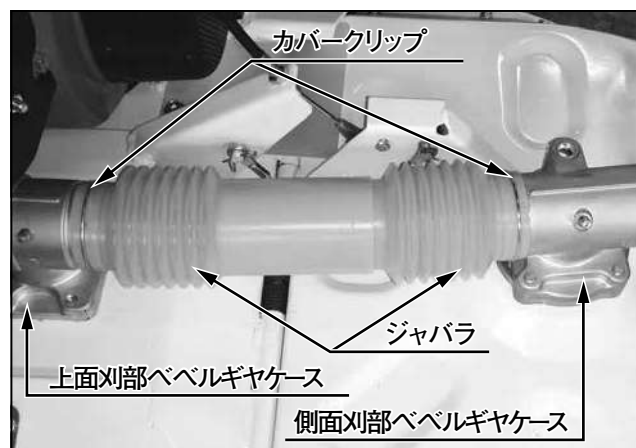


警告

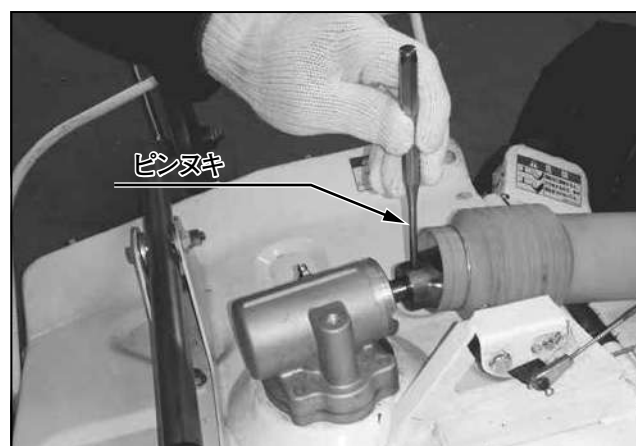
* 刃物に触るときは、鋭利な物に当たっても切れにくい手袋を着用し、刃先に注意してください。

セットピンは側面刈部のユニバーサルジョイントに装着されています。

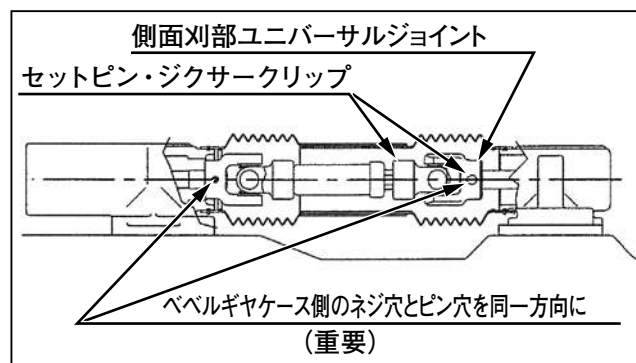
- ① カバークリップを外し、ジャバラをベベルギヤケースから外します。



- ② 刈刃を手で回し、穴位置を合わせます。



- ③ ピンヌキで穴に残っているセットピンを抜いてください。
- ④ 新しいセットピンを穴に入れてください。このとき、ベベルギヤケース側に位置するユニバーサルジョイント（双方）のネジ穴（上面刈部側）とピン穴（側面刈部側）を同じ方向に合わせてください。



- ⑤ ジクサークリップをセットピンの溝にいます。
- ⑥ ジャバラをベベルギヤケースに組付け、カバークリップで止めます。

重要

* 両側の穴を同一方向にしないと、草刈り作業時、異常振動が発生し、故障の原因になります。

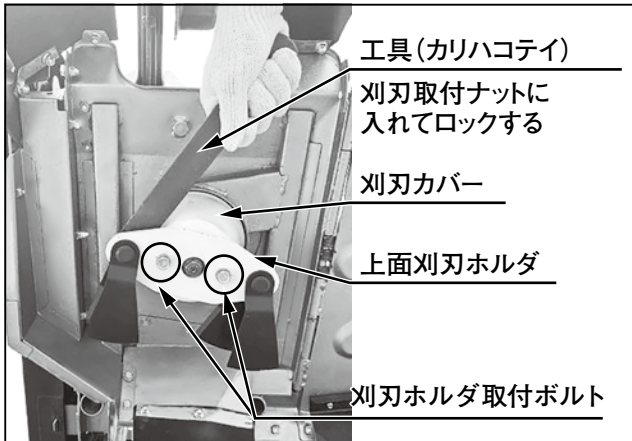
■上面刈刃部キーの交換



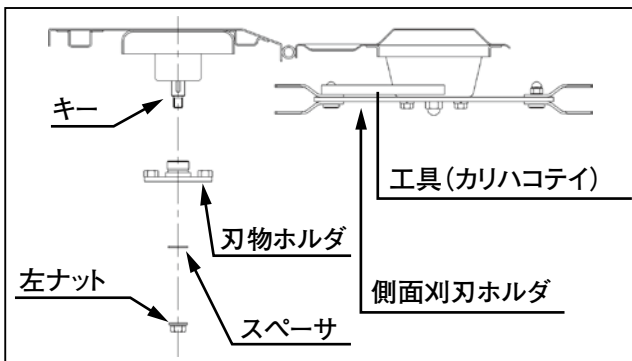
警告

* 刃物に触るときは、鋭利な物に当たっても切れにくい手袋を着用し、刃先に注意してください。

- ① 上面刈刃ホルダを工具（カリハコテイ）で固定し、刈刃ホルダ取付ボルト（M10）2個をゆるめ、上面刈刃ホルダと刈刃カバーを外します。



- ② 側面刈刃ホルダを工具（カリハコテイ）で固定し、左ナットをゆるめ、スペーサ、刃物ホルダを外し、キーを交換します。



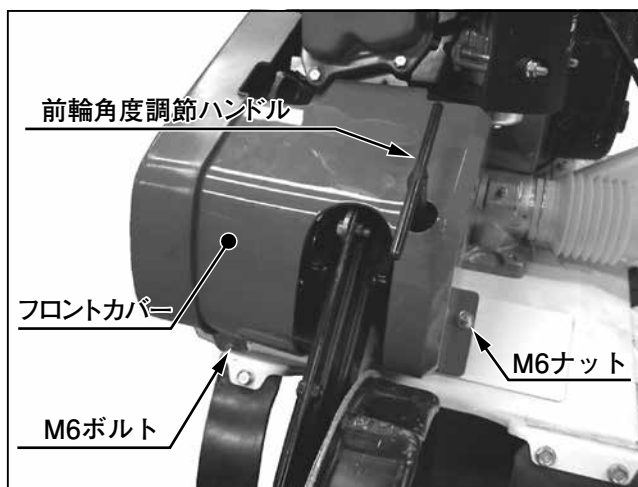
- ③ 組付けは逆の要領で組付けてください。この際、刈刃ホルダ取付ボルト（M10）は新品に交換し、50.0～56.0N・m（510～571kgf・cm）で締付けてください。（刈刃ホルダ取付ボルト品番P25参照）

補足

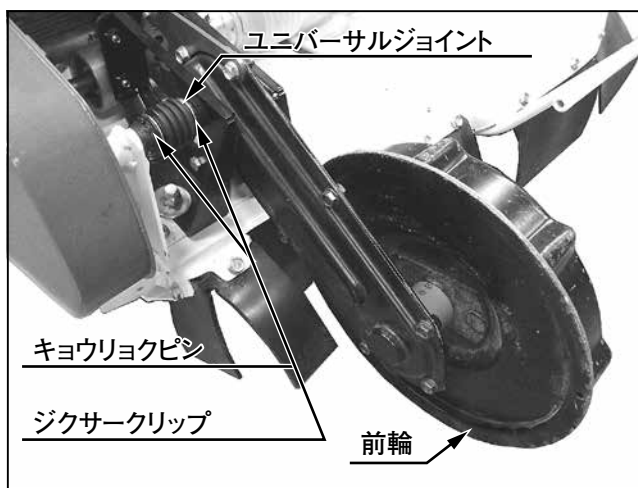
* キーがかじり、刃物ホルダが外れにくい場合は、プーラーを使用して外してください。

■前輪ユニバーサルジョイント部キョウリョクピンの交換

- ①前輪角度調節ハンドルを外します。
- ②フロントカバーを外します。(M6ボルト1個, M6ナット1個)



- ③キョウリョクピンが折れている側のジクサークリップを溝から外します。
- ④前輪を手で回し、穴位置を合わせます。
- ⑤ピンヌキで穴に残っているキョウリョクピンを抜いてください。
- ⑥新しいキョウリョクピンを穴に入れてください。
- ⑦ジクサークリップを溝に入れます。

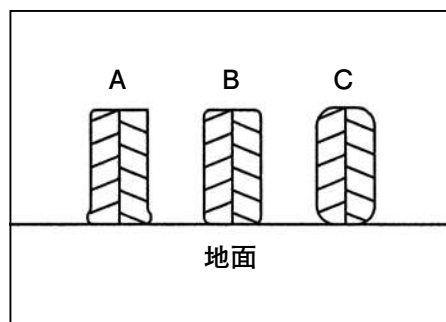


- ⑧フロントカバーを組付けます。(M6ボルト1個, M6ナット1個)
- ⑨前輪角度調節ハンドルを組付けます。

■タイヤ空気圧の調整

タイヤの空気圧を90~110kPa (0.9~1.1kgf/cm²) に調整してください。

空気圧が適正でない、作業中ハンドルを取られることがあります。



- A 不足
B 適正
C 過剰

長期格納のしかた



警告

*カバーをかけたり、納屋に格納するとき、各種メンテナンスをするときはヤケドや火災のおそれがあるため、エンジンが冷えてからにしてください。

*燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発・火災のおそれがあります。

シーズン終了後、機械を格納する場合は次のことを守ってください。

- ①各部に付着した泥や草を取除いてください。
- ②摩擦しゅう動部分、各レバー支点はきれいに清掃したあとじゅうぶん注油して、錆びたり、硬着したりしないようにしてください。
- ③燃料が残っているときは必ず抜き取ってください。

重要

*長期間(2ヶ月以上)使用しない場合は、燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が変質してキャブレタ内部が詰まり、エンジン故障(始動不良や出力不足)の原因となります。

使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときはお買上げの購入先に修理を依頼してください。

- エンジン本体
- ミッションケース
- 電気部品と電気系統

使用済廃棄物の処理について

機械の廃油や廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。地面へのたれ流しや川、湖沼への廃棄は絶対にしないでください。

廃油・燃料・フィルタ・その他有害物を捨てる時は、購入先、又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

畦畔草刈機の不調と処置

もし、次のような現象が発生した場合には、エンジンを必ず“停止”し、次の表により診断し適切な処置をしてください。

わからない場合は、購入先にご相談ください。

◆エンジン部

現象	原因	処置	ページ
始動困難な場合。 (始動しない場合)	刈取りクラッチレバーが“切”の位置でない。	刈取りクラッチレバーを必ず“切”の位置にする。	10
	アクセルレバーが「始動」の位置でない。	アクセルレバーを必ず「始動」の位置にする。	3
	チョークレバーを“閉”の位置にしている。	エンジンが冷えている時、チョークレバーを“閉”の位置にする。	3
	燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を取除く。 ●燃料コックの燃料カップを取外し、燃料カップ内の沈殿物を取除く。	28
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取除き、パイプ及び締付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換又は補修しておく。	28
	点火コイル、又はユニットの不良。	点火コイル、又はユニットを交換する。	—
	点火プラグの不調。	●点火プラグの電極のスキマを点検、調整、清掃する。 ●新しい点火プラグと交換する。	29
始動困難な場合。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。	—
出力不足の場合。	燃料不足。	燃料を補給する。	7
	エアクリーナの目詰まり。	●エレメントを清掃する。 ●新しいエレメントと交換する。	7
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。	—
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。“開”の位置にする。	3
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルカバー周辺を清掃する。 リコイルカバーを外し、内部のカバーを清掃する。	8 28
突然停止した場合。	燃料不足。	燃料を補給する。	7
	燃料コックレバーが開いていない。	燃料コックレバーを開く。	10
排気色が異常に黒い場合。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。	—
	エンジンオイルの入れ過ぎ。	正規のオイル量にする。	7
マフラーから黒煙が出て出力が低下した場合。	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。	7
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。“開”の位置にする。	3
マフラーから青白煙が出た場合。	エンジンオイルの入れ過ぎ。	正規のオイル量にする。	7
	前側に25°以上倒して使用した。	正規のオイル量にし、青白煙が出なくなるまで空運転する。	—
	シリンダー・ピストンリングの摩耗。	リングを交換する。	—
エンジンの回転数が安定しない。 (エンジン回転が上昇しない。)	チョークが開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。“開”の位置にする。	3
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。	—
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	点火コイルを交換する。	—
	燃料カップのよごれ。	燃料カップを清掃する。	28
排気臭に刺激がある場合。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。	—
エンジンスイッチを“停止”にしても止まらない。	スイッチコード接続不良。	確実に接続する。	—

◆本機部

現象	原因	処置	ページ
刈草がうまく放出されない。	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈りをする。	17
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。	16
	エンジン回転数が低い。	アクセルレバーを“高速”にする。	17
	作業速度が速い。	変速レバーを“低”にする。	17
刈残しが出る。	作業速度が速い。	変速レバーを“低”にする。	17
	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈りをする。	17
	草が密集している。	刈高さを高くして、二度刈りをする。	17
	刈刃が摩耗、破損している。	新しい刈刃と交換する。	25
	エンジン回転数が低い。	アクセルレバーを“高速”にする。	17
土を削ってしまう。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。	16
	地形にうねりがある。	草刈り作業のパターン（刈取り方向など）を変える。	—
	地形に起伏（凹凸）が多い。	刈高さを高くする。	16
	刈刃が曲がっている。	新しい刈刃と交換する。	25
刈刃が回転しない。	刈刃ベルトが摩耗又は切れている。	新しい刈刃ベルトと交換する。	26
	刈刃ベルトがスリップしている。	刈取りクラッチワイヤを調整する。	27
	刈刃ユニバーサルジョイント部セットピンが折れている。	新しいセットピンと交換する。	29
	上面刈刃部のキーが切れている。	新しいキーに交換する。	30
	刈刃まわりに草がたい積、あるいは巻きついている。	刈刃カバー内面をきれいに清掃する。	—
振動が大きい。	刈刃が破損している。	新しい刈刃と交換する。	25
	刈刃のバランスが悪い。	新しい刈刃と交換する。	25
	刈刃につる草や異物が巻きついている。	つる草や異物を取除く。	—
	刈刃ユニバーサルジョイントの穴が同一方向でない。	ユニバーサルジョイントの穴を同一方向にする。	29
車輪がスリップする。	ほ場が軟弱である。	ほ場が乾いてから作業する。	15
	作業速度が速く、負荷となっている。	変速レバーを“低”にする。	17
	草が密集しており、負荷となっている。	●変速レバーを“低”にする。	17
●刈高さを高くして、二度刈りをする。		17	
車輪が時々停止する。	走行クラッチワイヤが伸びている。	走行クラッチワイヤを調節する。	27
変速ができない。	変速ワイヤが伸びている。	変速ワイヤを調節する。	27
車輪が駆動しない。	前輪：前輪ユニバーサルジョイント部キョウリョクピンが折れている。	キョウリョクピンを交換する。	31
	後輪：後輪駆動ピンが折れている。	購入先で後輪駆動ピンを交換する。	—
	走行ベルトがスリップしている。	走行ベルトの張力を調節する。	26
	走行ベルトが摩耗又は切れている。	新しい走行ベルトと交換する。	26
	走行クラッチワイヤが伸びている。	走行クラッチワイヤを調節する。	27
直進しない。	側面刈刃部の負荷が大きい。	●前輪角度を調節する。	17
		●刈高さを高くして、二度刈りをする。	17
平面刃と側面刃が接触する。	刈刃ユニバーサルジョイント部セットピンが折れている。	新しいセットピンと交換する。	29
	平面刈刃部のキーが切れている。	新しいキーに交換する。	30

付 表

■主要諸元

商 品 名		SGCM750-FC		
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1780		
	全 幅 (mm)	920		
	全 高 (mm)	1000		
	質 量 (kg)	74		
エ ン ジ ン	名 称	GX200T2 SCMK		
	型 式	GCBTT		
	形 式	空冷4ストローク傾斜型ガソリン		
	総排気量 L (cc)	0.196 (196)		
	最大出力/回転速度 kW(PS)/min ⁻¹ (rpm)	グロス表記	4.6 (6.3) / 3600	
		ネット表記	4.1 (5.6) / 3600	
	使用燃料/タンク容量 (L)	自動車用レギュラガソリン (無鉛) / 3.1		
	始 動 方 式	リコイルスタータ		
走 行 部	ド ラ イ ブ 方 式	前後両輪駆動		
	変 速 段 数	前進3段, 後進1段		
	走 行 速 度 (m/sec)	前進	低0.39, 中0.61, 高0.78	
		後進	0.4	
前輪ステアリング角度 (°)	0~15			
切 断 部	刈 刃 形 式	ロータリー式, 2軸×4枚刃 (フリー刃, 上下各2枚)		
	上 面 刈 幅 (mm)	350		
	側 面 刈 幅 (mm)	400		
	側面刈角度範囲 (°)	-5~53		

●この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

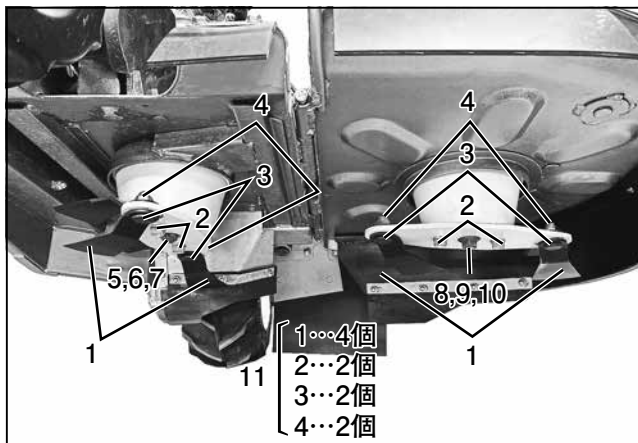
■付属品

次の部品が付属していますのでお調べください。

*保証書	1
*取扱説明書	1
*保護メガネ	1
*工具 (カリハコテイ)	1
*キョウリョクピン	1
*セットピン	1
*キー	1
*プラグレンチ	1
*レンチハンドル	1
*ジクサークリップ	1
*ナット (U, メック)	4

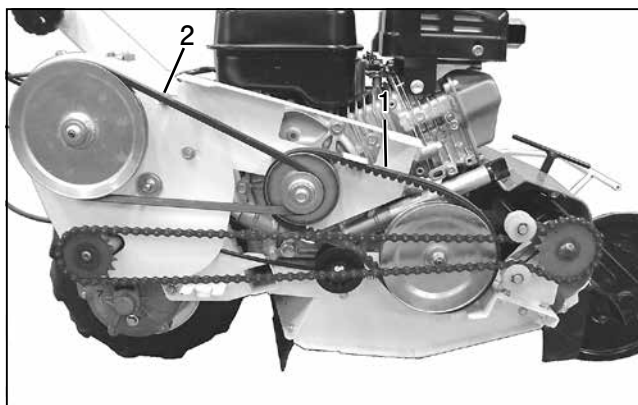
■消耗部品

◆刈刃



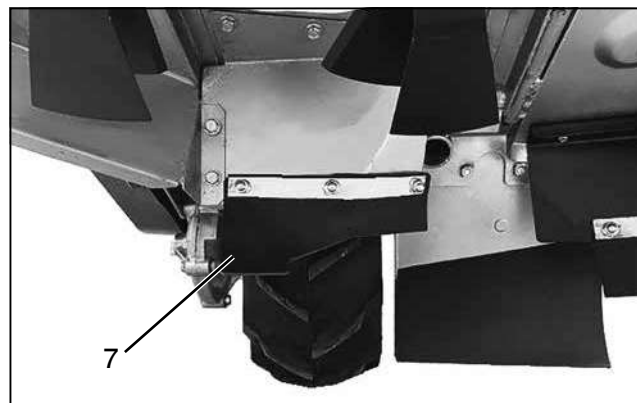
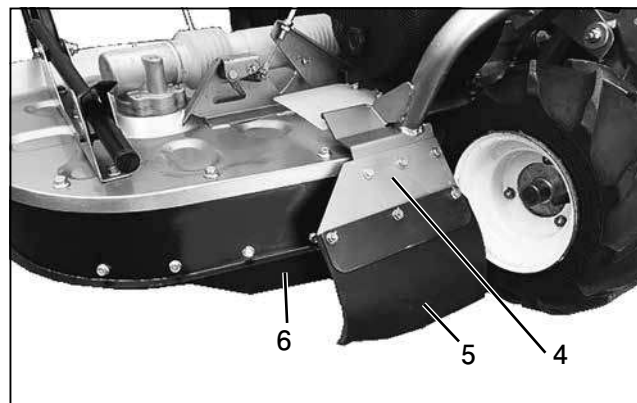
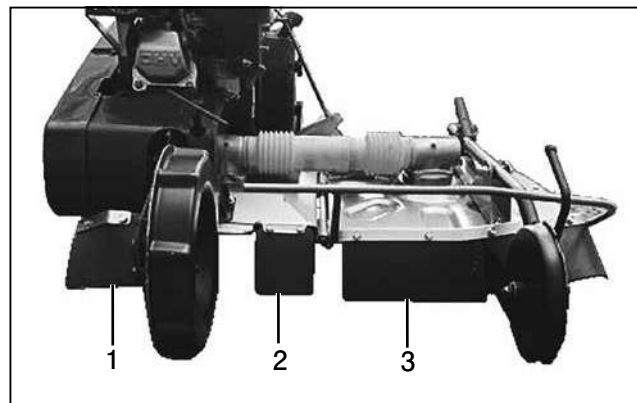
図番	部品名称	品番
1	カリハ	_____
2	ボルト (M10)	5J050-4638-0
3	ピン (カリハ)	L6401-3114-0
4	ナット (U, メック)	L6401-4136-0
5	スペーサ (12-25)	L6252-41331
6	フェザキー (5×14)	L6311-4185-0
7	フランジナット (M12, ヒダリ)	L6271-4135-0
8	ヒラザガネ	04014-50120
9	バネザガネ	04512-50120
10	フランジナット	02711-50120
11	カリハ, アッシ	L6471-9110-0

◆ベルト



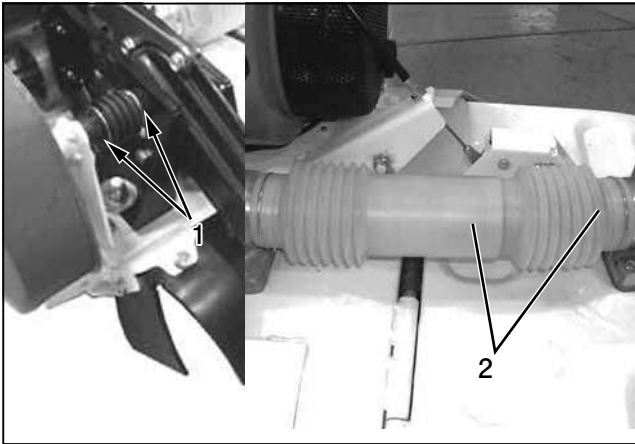
図番	部品名称	品番
1	ベルト (コグ, B-29)	5J050-9714-0
2	ベルト (A-34)	5J050-2221-0

◆飛散防止カバー, ガード



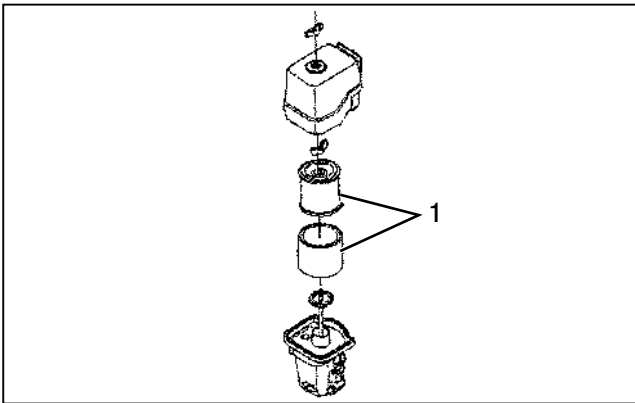
図番	部品名称	品番
1	カバー (マエゴム, 1-1)	L6471-4191-0
2	カバー (マエゴム, 1-2)	5J083-4185-0
3	カバー (マエゴム, 2)	L6351-4251-0
4	プレート (ヒサンボウシ)	L6471-1141-0
5	カバー (ヒサンボウシ, 1)	L6471-4195-0
6	カバー (ヒサンボウシ, 2)	L6471-4196-0
7	カバー (R, 1)	L6471-4194-0

◆ピン



図番	部品名称	品番
1	キョウリョクピン	50727-5233-0
2	セットピン, アッシ	L6211-9110-0

◆エアクリナーエレメント



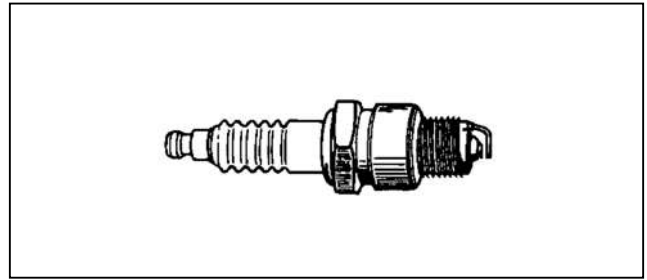
図番	部品名称	品番
1	エレメント, エアクリナー (サイクロン)	LE030-14591

◆燃料パイプ



図番	部品名称	品番
1	チューブ, フューエル 4.5×145	LE030-10020

◆点火プラグ



図番	部品名称	品番
1	プラグ, スパーク (BP6ES)	LE030-10000

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正オプションを使いましょう

純正オプションは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。



株式会社 齋藤農機製作所

- 本社・工場 〒998-0832 山形県酒田市両羽町332番地
TEL0234(23)1511(代) ファクシミリ0234(26)4161
- 北海道営業所 〒079-0181 北海道岩見沢市岡山町18番地
TEL0126(24)5401(代) ファクシミリ0126(24)5402
- 九州営業所 〒861-8039 熊本県熊本市東区長嶺南1丁目1番10号
TEL096(384)6865(代) ファクシミリ096(384)6864